

IV 雑草防除ガイド

1 除草剤使用上の基本事項

除草剤は雑草を枯殺、あるいは発生を抑制することが目的であり、作物と雑草との選択性の高い除草剤や作物に薬害発生危険性が低い剤であっても、作物の生育や生理状態などによって何らかの影響をおよぼすものである。そのため、除草剤の使用に当たっては、除草剤の性質、土壌条件、作物の生育状況等に十分注意するとともに次の事項に留意する。

- (1) 除草剤の特性に合わせて適期散布を励行するとともに、薬剤ごとの使用時期や回数、薬量などの使用基準を厳守する。
- (2) 除草剤は、適用作物、適用地帯、適用作型以外には使用しない。
- (3) 薬剤は、均一に散布し、むらまき、重複散布にならないよう注意する。
- (4) 薬剤散布は、特に散布法や風向等に十分注意して薬剤が近接ほ場や用排水路へ飛散、流入しないようにする。
- (5) 除草剤散布後の機械機具は、直ちに水洗いをする。特にホルモン系除草剤については、専用の機具を使用するか、使用後は洗剤で洗ってから、さらに数回水洗いをする。
- (6) その他、作物別の除草剤使用上の留意事項は、それぞれの項目を参照する。
- (7) 昨年度の本ガイドから変更のあった事項については、下線で示した。(誤字などの簡易な修正を除く)

2 水 稲

(1) 除草剤使用上の留意事項

ア 共通事項

- (ア) 水稲用除草剤は、剤型が多様化し製品数が多いことから、製品ラベルを熟読し対象草種、使用時期、投下量などを散布前に必ず確認する。

イ 水管理

- (ア) 水稲用除草剤は、一部の直播用剤や茎葉処理剤を除き湛水条件で使用することから水管理が最も重要である。
- (イ) 事前に落水口や漏水個所の点検・補修を行い、散布後の水田水をほ場外へ流出させないようにするとともに、漏水田では除草剤を使用しない。
- (ウ) 散布時は完全に止め水とし、散布後7日間程度は田面を露出させないようそのまま湛水を保ち、落水やかけ流しをしない。また、やむを得ず止め水期間中に入水する場合は静かに行う。
- (エ) 粒剤では水深3～5cmで散布すること。フロアブル剤、ジャンボ剤その他少量拡散型粒剤等は5～6cmとし、拡散を阻害する藻類・表層剥離が少ないことを確認する。
- (オ) 散布後は、田面が露出したり土壌表面の薬剤処理層を攪拌すると除草効果が低下するため、効果が持続している間は落水や中干し、中耕等は行わない。
- (カ) 落水散布又は極浅水にして散布する剤の場合は、雑草茎葉部が水面上に十分露出していることを確認する。散布後は少なくとも7日間はそのままの状態とし入水や掛け流しはしない。

ウ 使用時期

- (ア) ガイドで示す水稲の葉令とは平均葉令、ノビエの葉令とは最高葉令(最も生育の進んでいる個体の葉令)であり、散布適期を逸しないよう注意する。
- (イ) 代かきから移植までの日数はおよそ5日以内として処理時期が設定されているので、代かきから移植までの日数が長くなる時は、雑草特にノビエの生育(葉令)に注意する。
- (ウ) 移植前処理は、移植時の落水や田植機等による処理層の破壊などによって除草効果が変動しやすいこと、除草剤成分の河川への流出による環境への影響の恐れがあることを考慮し、平成11年に本防除ガイドから削除した。

エ 散布方法

- (ア) 無人ヘリコプター及び無人マルチローターでは、薬剤がほ場外に落下しないように風向に注意する。
- (イ) ラジコンボートでは、処理むらが生じないように、運用は慎重に行う。

(ウ) 水口処理では、均平度が高く水持ちの良い水田で、給水能力として5～6cmの湛水が6時間以内に可能な水田に限る。処理はヒタヒタ水もしくは浅水条件(1～2cm)で薬剤を投入し、流入水とともに水田全面に拡散させる。田面水が通常の湛水状態(湛水深5cm前後)に達した後は必ず水を止め、水尻からのオーバーフローに注意する。また、水口が2箇所以上の場合は、薬剤を均等に分け、それぞれの水口から同時又は連続して処理する。

オ 薬害

- (ア) 軟弱・徒長苗の使用や極端な浅植えで根が露出する水田では、薬害の発生する恐れがあるので使用しない。
- (イ) 土壌還元が著しい水田において、シメトリンなどトリアジン系除草剤を使用すると水稻の生育に障害を与えることがあるので注意する。
- (ウ) MCPBなどフェノキシ系除草剤は、低温条件で使用すると水稻に対して筒状葉の発生や生育抑制等の薬害を生じやすいので、水稻の葉令が5.5葉以上、平均気温15.5℃以上の条件で使用する。
- (エ) 魚毒性分類に代わる新たな評価基準が導入されており、すべての薬剤は新たな評価手法に切り替わっているため、FAMICのホームページ等で確認し、魚介類に被害をおよぼす恐れのある薬剤については、河川、養魚池等に絶対流出させることのないよう特に留意して処置する。

カ 抵抗性雑草

- (ア) 同じ系統の除草剤を毎年使用すると抵抗性を持ち効果が著しく劣る雑草が発生することがあることから連用は避ける。もし、一部の雑草種だけが繁茂した場合は関係機関に相談するとともに、次年度同じ剤は使用しない。
- (イ) SU系除草剤抵抗性イヌホタルイの発生は、感受性イヌホタルイより早いことが多いので、観察時期を早め、処理時期が遅れないよう注意する。
- (ウ) SU系除草剤抵抗性イヌホタルイに対しては、種子の生存率を考慮し、当面、有効除草剤を継続して3年以上使用する。
- (エ) 道内においても平成21年にSU剤抵抗性オモダカが存在が確認されたことから、オモダカの残草が増えた場合には、SU剤以外の有効な除草剤の使用を検討する。なお、オモダカは発生期間が長く、遅く発生する固体には効果が劣るので、必要に応じて有効な中期剤などとの組み合わせで使用する。

キ 表記

- (ア) 薬剤は、原則として商品名のアイウエオの順番で整理した。
- (イ) SU系除草剤抵抗性イヌホタルイに対して効果が確認された除草剤については、ホタルイ欄の下段に◎で記載し、殺草限界葉令が通常のイヌホタルイ以下の場合のみ葉令を記載した。
- (ウ) ミズアオイとアゼナでは、SU系除草剤抵抗性を含む個体に対し効果が確認された除草剤について◎で記載した。なお、アゼナの殺草限界は主にノビエの葉令で示した。

(3) - 2 販売数量が3年連続して500haに満たない剤(掲載から5年以上経過)

番号	商品名	指導参考年	試験コード	防除ガイド 初掲載年	新規 ・改訂
1	アークエース粒剤	H13	KH-183	H14	
2	クリアホーフロアフル	H21	AKD-7155・F	H25	
3	シーゼットフロアフル	H9	TSM-612・F	H9	
4	シヨキニーフロアフル	H9	KUH-958・F	H9	
5	シヨッカーフロアフル	H10	NSK-859・F	H10	
6	シノウチEW	H17	KPP-2008EW	H23	
7	シング乳剤	H6	TCG-128乳	H6	
8	スヒソフロアフル	H16	KPP-2011・F	H17	
9	農将軍フロアフル	H10	YH-562・F	H10	
10	ハテホーフ1キロ粒剤	H8	KUH-942	H8	
11	ハクサーフロアフル	H9	KPP-314L・F	H9	
12	マーゼット1キロ粒剤	H13	ブタロール	H15	
13	ワンバーストフロアフル	H4	SL-970・F	H6	

(2) 移植水稲(苗代)、(3) 移植水稲(本田・移植後土壌処理)

(4) - 2 販売数量が3年連続して500haに満たない剤(掲載から5年以上経過)

番号	商品名	指導参考年	試験コード	防除ガイド 初掲載年	新規 ・改訂
1	ワンバーストフロアブル	H4	SL-970・F	H6	
2	シーゼットフロアブル	H3	TSM-612・F	H4	
3	ヨシキタフロアブル	H18	SST-403・F	H20	
4	ナイスヨットシヤンホ	H10	SW-965・J	H12	
5	イノバDX1キロ粒剤75	H15	NBA-131a	H16	
6	サステイナブルシヤンホ	H17	BAG-032・J	H19	
7	ネビロス-ラジカルシヤンホ	H14	AC-014R・J	H15	
8	サンジヤインフロアブル	H18	SB-564	H23	
9	マキシーMX1キロ粒剤	H20	SYJ-167	H23	
10	カミオンMX1キロ粒剤	H22	SYJ-219	H24	
11	半蔵1キロ粒剤	H22	BAH-041	H24	
12	ユーピア1キロ粒剤	H10	AC-014A	H12	

(4) 移植水灌(初期一発剤)

(5) ー2 販売数量が3年連続して500haに満たない剤(掲載から5年以上経過)

(5) 移植水稲(初中期一発剤)

番号	商品名	指導参考年	試験コード	防除ガイド 初掲載年	新規・ 改訂
1	イッテツプロアフル	H14	TH-001・F	H15	
2	忍プロアフル	H22	TH-601・F	H23	
3	ゼータワンプロアフル	H20	TH-547(Z)・F	H24	
4	トニチS1キロ粒剤	H17	SST-402	H19	
5	ダイナマンプロアフル	H14	NH-803・F	H15	
6	メカトンプロアフル	H18	NH-403・F	H20	
7	エーワンプロアフル	H19	BCH-051・F	H24	
8	キチットプロアフル	H18	TH-224・F	H19	
9	サラレットRXプロアフル	H14	MY-100TSC・F	H15	
10	ホクト1キロ粒剤	H10	NC-311DCD	H11	
11	ムソウ1キロ粒剤	H20	NH-061	H23	
12	イノハ`DXアツプロアフル	H17	SW-032・F	H19	
13	ビッグシュアエース1キロ粒剤	H18	BCH-044	H19	
14	フルゼータプロアフル	H22	S-9421・F	H25	
15	イノハ`トリオプロアフル	H17	SW-032・F	H27	
16	イノハ`トリオ1キロ粒剤75	H16	SW-041・H	H27	
17	キマリプロアフル	H26	HOK-1101・F	H28	
18	アビコ`ロウMX1キロ粒剤	H24	SYJ-223	H26	
19	フルハ`ウ-MX1キロ粒 剤	H26	SL-1001	H27	
20	カイキプロアフル	R2	HOK-1702EL	R3	新

(6) - 2 販売数量が3年連続して500haに満たない剤(掲載から5年以上経過)

番号	商品名	指導参考年	試験コード	防除ガイド 初掲載年	新規 ・改訂
1	オソキMX1キロ粒剤	H24	MIH-104	H25	
2	ザンベックスDX1キロ粒剤	H12	SW-973	H13	
3	ザンベックスSM1キロ粒剤	H10	NS-177	H10	
4	セカンドショットSシンボMX	H30	MIH-144シンボ	H31	新
5	ナイストル1キロ粒剤	H20	SL-0604	H22	
6	ハイカット1キロ粒剤	H18	NC-612	H20	
7	ヒエクリーン1キロ粒剤	H12	KUH-983	H14	
8	ワンステージ1キロ粒剤	H12	KUH-983	H14	

(6) 移種水稲(中期南)

(8) 直播水稻

番 号	商 品 名 〔試験番号〕	有 効 成 分 名 及 び 含 有 量 (%)	使 用 時 期	使 用 方 法 及 び 10a 当 た り 使 用 量	土 壌 条 件	対 象 雑 草 と 処 理 限 界											毒 性	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項 と 薬 害 症 状	関 連 指 導 対 象 剤 (含有の有効成分が同一 で剤型が異なる商品(詳しくは掲載農薬一覧表の見方と留意事項を参照))	新 規 ・ 改 訂
						ノビエ	一 年 生 雑 草	マツバイ	ホタルイ	へらオモダカ	ウリカワ	ヒルムシロ	エソノサヤヌカグサ	セリ	オモダカ	ミスアオイ					
9	シヤスタ7077P 〔MIH-1627077P〕	シクロリレート 5.5% トリアアモン 0.9% ピラゾレート 11.0%	イネ1L～/ビエ3L	500ml	壤土 ～ 埴土	○ 3L	○	○	○ 2L	○ 2L	○ 始	○ 始	○ 期						○シヤスタ7077P ○シヤスタ400FG		
10	シヤスタ1キ0粒剤 〔MIH-161-1kg粒〕	シクロリレート 3.0% トリアアモン 0.5% ピラゾレート 6.0%	播種時(+0)	1kg	壤土 ～ 埴土	○ 前	○	○	○ 前	○ 前	○ 前	○ 前	○ 前	○ 前							
11	ヒエカーン1キ0粒剤 〔KUH-983〕	ピリミハツカチル 1.2%	+0(播種同時)	0.5kg	壤土 ～ 埴土	○ 前															
12	ワスターン1キ0粒剤 〔KUH-983〕																				
13	フルハワー-MX1キ0粒剤 〔SL-1001〕	ピラゾロン 2.0% フルセトスルフロ 0.2% メトロン 0.8%	イネ1L～/ビエ3L (收穫60日前まで)	1kg	壤土 ～ 埴土	○ 3L	○	○	○ 2L	○ 2L	○ 2L	○ 始	○ 期	○ 始	◎ 1L	◎ 3L			○フルハワー-MX1キ0粒剤		
14	フレキアフロアフル 〔SL-4901-F〕	ピラゾキナフェン 20.0% ベンゾピシロン 4.0%	+0～/ビエ1L (但し、收穫90日前まで)	湛水散布 500ml/10a(少量散布は 300ml/10a)	壤土 ～ 埴土	○ 1L	○	○	○ 始	○ 始	○ 前	○ 前	○ 前	○ 前	◎ 前						
15	マスタオフロアフル 〔S-9203〕	イマズスルフロ 1.7% ピリミハツカチル 1.2% フェンキトロロン 5.8%	+稲1L～/ビエ2.5L (收穫90日前まで)	500ml	壤土 ～ 埴土	○ 2.5L	○	○	○ 1L	○ 始	○ 始	○ 始	○ 始	○ 始							
16	ラオカフロアフル 〔KUH-1917077P〕	タムロン 11.3% ズエキサルホロン 2.8% フェンキトロロン 4.7% ヘンズルピロチル 1.4%	稲1L～/ビエ2L (收穫90日前まで)	500ml	壤土 ～ 埴土	○ 2L	○	○	○ 1L	○ 始	○ 始	○ 始	○ 始	○ 始	◎ 1L				○ラオカ1kg粒剤 ○ラオカ1kg粒剤		

(9)水田畦畔除草

(9)水田畦畔除草

番 号	商 品 名 [試験番号]	有効成分名 及び含有量(%)	使用時期	使用方法及び 10a当たり使用量	土 壌 条 件	対象草種				本 剤 の 使 用 回 数	使用上の注意事項と薬害症状 □薬害症状	新 規 ・ 改 訂
						全 草 種	一 年 生 雑 草	ス ギ ナ	マ メ 科			
1	カワコ粒剤4.5 [DBN-4.5]	DBN 4.5%	秋冬処理 (収獲前まで)	6~8kg	全土壌	○			×	1	・流入、飛散による水稲への薬害に注意する	
2	カワコ粒剤6.7 [DBN-6.7]	DBN 6.7%	秋冬処理 (収獲前まで)	5~6kg	全土壌	○			×	1	・流入、飛散による水稲への薬害に注意する	
3	クワトロキンク [WOC-01]	グリホサートイソプロピルアミン塩 41.0%	雑草生育期 草丈30cm以下 (収獲14日前まで)	一年生雑草 250~500ml、 多年生雑草 500~1,000ml、 散布液量:100L、25L	全土壌	○		×		2	・25L散布は専用器具を使用する ・流入、飛散による水稲への薬害に注意する	
4	サカ液剤 [AH-01液]	グリホサートイソプロピルアミン塩 11.5%	雑草生育期 草丈30cm以下 (収獲7日前まで)	500~1,000ml 散布液量:100~150L	全土壌	○				2	・流入、飛散による水稲への薬害に注意する	
5	サンダーポール007 [NH-007]	グリホサートイソプロピルアミン塩 30.0% ピラフルメタチル 0.16%	雑草生育期 草丈30cm以下 (収獲14日前まで)	400~600ml 散布液量:100L	全土壌	○		×		2	・流入、飛散による水稲への薬害に注意する	
6	サンフーロン液剤 [AK-01]	グリホサートイソプロピルアミン塩 41.0%	雑草生育期 草丈30cm以下 (収獲14日前まで)	一年生雑草 250~500ml、 多年生雑草 500~1,000ml、 散布液量:50~100L	全土壌	○		×		2	・流入、飛散による水稲への薬害に注意する	
7	クワダウクンIQ [ZK-122]	グリホサートイソプロピルアミン塩 44.7%	雑草生育期 草丈30cm以下 (収獲14日前まで)	一年生雑草 250~500ml、 多年生雑草 500~1,000ml、 散布液量:50L(専用ノズルを使用) スギナ 1,500~2,000ml、 散布液量:50~100L (50Lは専用ノズルを使用)	全土壌	○		×	○	2	・流入、飛散による水稲への薬害に注意する	
8	ハス液剤 [Hoe-866]	グリホサートイソプロピルアミン塩 18.5%	雑草生育期 草丈30cm以下 (収獲7日前まで)	750~1,000ml 散布液量:100~150L	全土壌	○				3	・流入、飛散による水稲への薬害に注意する	改
9	ラウトアップマックス ロート [NC-622液]	グリホサートイソプロピルアミン塩 48.0%	雑草生育期 草丈30cm以下 (収獲前日まで)	200~500ml 散布液量:50~100L 50Lは専用ノズル使用 1,500~2,000ml 散布液量:50~100L 50Lは専用ノズル使用 500~1,000ml 散布液量:50~100L 50Lは専用ノズル使用	全土壌	○		○		3	・流入、飛散による水稲への薬害に注意する	
10	MCPノーグ塩 [MCP-Nb液]	MCPAナトリウム塩 19.5%	雑草生育期 草丈30cm以下 (収獲14日前まで)	200g 散布液量:100L	全土壌	○		○		3	・イネ科雑草に対する効果はない □下葉枯れ	

注1 ×は対象草種から除くことを示す。

注2 畦畔以外に飛散させないように注意して散布する。

注3 水田除草剤は畦畔のり面への散布は避ける。

(10)水田畦畔除草剤

(10)水田畦畔除草剤(11)休耕田

番 号	商 品 名 [試験番号]	有 効 成 分 名 及 び 含 有 量 (%)	使 用 時 期	使 用 方 法 及 び 10a 当 た り 使 用 量	土 壌 条 件	対 象 草 種				本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項 と 薬 害 症 状 □ 薬 害 症 状	新 規 ・ 改 訂
						全 草 種	一 年 生 雑 草	ス ギ ナ	マ メ 科			
1	クラスタコート液剤 [KUH-913]	ヒスエリハットカブトカラム塩 3.0%	刈取後草丈10cm以下 (草刈取後10~20日) (収穫前日まで)	300~500ml 散布液量:25L、50~100L	全土壌	○				3	<ul style="list-style-type: none"> ・草種により効果の変動がある ・草丈抑制による刈り取り作業軽減 ・少量散布の場合専用ノズルを使用する 	

(11)休耕田

番 号	商 品 名 [試験番号]	有 効 成 分 名 及 び 含 有 量 (%)	使 用 時 期	使 用 方 法 及 び 10a 当 た り 使 用 量	土 壌 条 件	対 象 草 種				本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項 と 薬 害 症 状 □ 薬 害 症 状	新 規 ・ 改 訂
						全 草 種	一 年 生 雑 草	ス ギ ナ	マ メ 科			
1	ラウンドアップメックス ロード [NC-622液]	グリホサートカブトカラム塩 48.0%	雑草生管期 草丈1m以下	200ml、散布液量:25~50L 専用ノズル使用 500ml、散布液量:20~50L 専用ノズル使用	全土壌	○				3		

3 畑作物、園芸作物、飼料作物・草地

3-1 共通

(1) 除草剤使用上の留意事項

ア 全面土壌散布

- (ア) 全面土壌散布とは、雑草の発生前並びに発生直後に薬剤を土壌表面に処理し、土壌表面に処理層を形成して、出芽に必要な水と同時に薬剤が種子に吸収されるか、出芽中並びに出芽直後の幼芽、幼根に接触又は吸収され植物の生理機能をみだし、殺草効果をあげる方法である。
- (イ) 全面土壌散布の除草剤には、効果の持続期間が比較的長いものが多く、使用時期は、作物のは種後から出芽（萌芽）前で、雑草の発生前か発生初期に処理する。
- (ウ) 覆土が浅かったり、覆土むらがあると薬害の危険があるので、砕土、整地をていねいに行い、覆土は均一にする。なお、鎮圧を実施することにより効果を一層高めることができる。
- (エ) 土壌が乾燥している場合は効果が劣るので、散布水量を増すか、土壌水分が適度にある時に散布する。
- (オ) 乳剤、水和剤などの散布にはスプレーを使用し、噴霧口は除草剤専用ノズルを使用する。粉粒剤の散布に当たっては専用の器具を使用する。
- (カ) 散布水量は、10アール当たり100リットルを標準とし、特に散布水量の異なるときは、注意事項に記載している。

イ 雑草茎葉散布

- (ア) 雑草茎葉散布には、生育中の雑草に直接薬剤を散布し、接触した部分の組織を破壊して殺草する方法と、茎葉や根から薬剤を吸収させ光合成阻害や細胞分裂阻害など植物体の生理的障害を誘発し、殺草効果をあげる方法とがある。
- (イ) 処理後、降雨があると効果が低下したり薬害を起こすことがあるので、散布後1日程度降雨のない好天の日を選び散布する。
- (ウ) 作物の生育にむらがあると処理時期の決定が困難であり、薬害を生ずる危険があるので生育をそろえるよう配慮する。
- (エ) 散布水量は、10アール当たり噴霧機で70から100リットルを標準とし、雑草に薬剤が均一に付着するよう散布する。
なお、除草剤によっては、展着剤を加用するものがあるので、必ず所定の展着剤を加用する。
- (オ) 付近の立毛中の作物に飛散しないように散布する。
- (カ) 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布する。

ウ 共通的事項

- (ア) DBN（カソロン）を含む剤は、処理後に地表面から気化して滞留した場合に下枝や果実に薬害を生じるおそれがあるため、空気の滞留しやすい場所での使用を避ける。また、かぼちゃ、うり類などに隣接しているほ場及びその栽培予定地では、異常果の発生要因となるので使用を避ける。
- (イ) ペンディメタリンを含む剤は、後作物としてかぼちゃ等のうり科やほうれんそう、そばを作付けると生育が抑制されることがあるので、薬剤、後作物の選択に注意する。
- (ウ) 砂土系で有機物の少ない土壌では、薬剤の移動性が大きく、薬害の危険があるので、土壌条件に応じて使用量を少なめにするなどの注意が必要である。
- (エ) 土壌が乾燥し過ぎたり、長雨により土壌が過湿のときは、効果が不安定となるので使用を避け、適当な土壌水分のときに散布する。
- (オ) 使用後のタンク、ブーム、ノズルなどに薬液が残らないよう散布器具は十分に洗浄するとともに、薬液及び洗浄水を河川等に流さず、環境に影響を与えないよう処理する。
- (カ) 散布水量が10アール当たり50リットルより少ない少水量散布では、少水量散布専用ノズルを使用する。散布水量は農薬登録の範囲を厳守する。

エ 使用時期

麦類、豆類、直播のてんさい及びとうもろこしの出芽前～出芽始の使用時期については、次の区分を基準参考として指導する。

区 分	使 用 時 期	摘 要
は 種 直 後	は種当日 ～ 1日後	は種後は、農薬登録上 「は種当日～出芽前」で ある。
は 種 後	は種後2日 ～ 5日後	
出 芽 前	は種後6日 ～ 出芽2日前	
出 芽 直 前	出芽の前日	
出 芽 始	1個体でも出芽を認めたとき	
出 芽 期	は種粒数の40～50%の出芽を認めた日	
出 芽 揃	は種粒数の80%の出芽を認めた日	

オ その他

- (ア) 作物に使用できる除草剤が2種類以上列記してある場合は、適宜その中から選択して使用するものとする。
- (イ) 魚毒性分類に代わる新たな評価基準が導入されており、すべての薬剤は新たな評価手法に切り替わっているため、FAMICのホームページ等で確認し、製剤毎の注意事項に基づき使用する。

(1) 麦類

(1) 麦類

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量			対象雑草		効果の程度							毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂	
			秋まき小麦	春まき小麦	大麦	一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	広葉雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類	ハコベ	ナズナ					スカシタゴボウ
7	カキツク乳剤 [PL-10] -H7	ベンゾイメチリン 15% リニエロン 10%	全面土壌散 布	は種直後～は種後 (雑草発生前) 300～400ml			●											1 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が長く時 期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前 か発生初期に散布する。 3. 重複散布は葉害の恐れがあるので、散布ムラがない よう均一に散布する。	
8	カキツク細粒剤F [PL-10] -H8	ベンゾイメチリン 1.5% リニエロン 1.0%	全面土壌散 布	は種直後～は種後 (雑草発生前) 3～5kg			●											1 1. 麦の葉身に一過性の白斑を生じることがある。 2. イヌカミソリが多発する圃場では使用基準の範囲内 で高用量で使用する。 3. 砂土及び過湿で排水不良ほ場での使用を避ける。 4. 水量は10a当たり70～100Lとする。	
9	カルシウム77077 [HSW-062] -H22,H27,R4	イソプロパノール 10% ジフルエニカン 4%	全面土壌散 布	は種後出芽前(雑草発生前) 150～250ml			●											1 1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が長く時 期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前 か発生初期に散布する。 3. 重複散布は葉害の恐れがあるので、散布ムラがない よう均一に散布する。	
10	カレスス乳剤 [RSH-44] -H4,H12,H18,H23	ジフルエニカン 3.7% トリフルアリン 37%	全面土壌散 布	は種後～出芽前 (雑草発生前) 200ml	は種後～出芽前 (雑草発生前) 200～250ml		●											1 1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が長く時 期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前 か発生初期に散布する。 3. 重複散布は葉害の恐れがあるので、散布ムラがない よう均一に散布する。	
11	カレスス乳剤 [RSH-44] -H14,H18	ジフルエニカン 0.15% トリフルアリン 2.0%	全面土壌散 布	は種後～出芽前 (雑草発生前) 4～5kg	は種後～出芽前 (雑草発生前) 4～5kg		●											1 1. 麦の葉身に一過性の白斑を生じることがある。 2. イヌカミソリが多発する圃場では使用基準の範囲内 で高用量で使用する。	
12	キナーブ70777 [KUH-165] -R1	ピロキスチルボン 7.4% ジフルエニカン 7.4%	雑草茎葉散 布又は全面 土壌散布	は種後～小麦3葉期 (雑草発生前～発生始期) 80～100ml	は種後～小麦3葉期 (雑草発生前～発生始期) 80～100ml		●											1 1. 麦の葉身に一過性の白斑を生じることがある。 2. イヌカミソリが多発する圃場では使用基準の範囲内 で高用量で使用する。 3. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が長く時 期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 4. 水量は10a当たり70～100Lとする。	

(1) 麦類

(1) 麦類

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量			対象雑草		効果の程度							本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
			秋まき小麦	春まき小麦	大麦	一年生雑草	一年生雑草	イネ科雑草	一年生イネ科	一年生イネ科	多年生イネ科	スズメノカタヒラ					
13	クリアタン乳剤 〔KUH-901〕 -H7	ハンチカローブ 50% ハンチイメタリン 5% リニロン 7.5%	全面土壌散 布 は種後(雑草発生前) 400~600ml		大麦	●								1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. キク科には効果がある。		
14	クリアタン細粒剤F 〔KUH-901〕 -H9	ハンチカローブ 8% ハンチイメタリン 0.8% リニロン 1.2%	全面土壌散 布 は種直後~は種後 (雑草発生前) 4~5kg			●								1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 土壌が乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分の時に散布する。 3. 重複散布は葉害の恐れがあるので、散布ムラがないよう均一に散布する。 4. 葉身に白斑点が生じることがある。 5. ツユクサには効果がある。		
15	ケサカート50 〔フロムリン〕 -S59	フロムリン 50%	全面土壌散 布 は種直後 150g			●								1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前から発生初期に散布する。		
16	コーゴーン乳剤 〔ANK-553〕 -S57,63,H元, H2,H17,H18,H19	ハンチイメタリン 30%	雑草葉散 布又は全面 土壌散布 は種後~麦2葉期 (雑草発生前~イネ科雑草 葉期まで) 300~400ml 出芽前~麦の葉期 (雑草発生前~イネ科 雑草1葉期まで) 300~500ml	は種後~出芽前 (雑草発生前~イネ科 雑草1葉期まで) 300~400ml 出芽前~麦の葉期 (雑草発生前~イネ科 雑草1葉期まで) 300~500ml		●								1	1. 排水不良のほ場や多量の降雨が予想される時は使用を避ける。 2. 雑草の生育が進むと効果が低下するので、雑草の発生前から発生初期に散布する。 3. ANK553に対しては低葉量では除草効果が劣る場合がある。 4. ツユクサ、キク科雑草に効果が劣る。 5. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やほうれんそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。		
17	コーゴーン細粒剤F 〔ANK-553〕 -S63,H3	ハンチイメタリン 2%	全面土壌散 布 は種後(雑草発生前) 6kg	は種後 (雑草発生前) 5~6kg		●								1	1. 排水不良のほ場や多量の降雨が予想される時は使用を避ける。 2. 土壌が乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分の時に散布する。 3. 雑草の生育が進むと効果が低下するので、雑草の発生前から発生初期に散布する。 4. 重複散布は葉害の恐れがあるので、散布ムラがないよう均一に散布する。 5. ツユクサ、キク科雑草に効果が劣る。 6. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やほうれんそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。		
18	トリアアイト乳剤 〔トリアルリン〕 -S63,H18,H22,31	トリアルリン 44.5%	全面土壌散 布 は種後~小麦3葉期(イネ科 雑草1葉期まで) 200~300ml 小麦生育期(雑草発生前) (収穫45日前まで) 200~300ml 水量:100L/10a	は種後(雑草発生前) 200~300ml		●								2	1. 砂土及び過湿の透水不良ほ場での使用は避ける。 2. 稔年した雑草は対象としないので、播種後に撒行の除草剤を使用する。		

(1) 麦類

(1) 麦類

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量			対象雑草		効果の程度							本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂				
			秋まき小麦	春まき小麦	大麦	一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	広葉雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類	ハコベ	ナズナ				スカシタゴボウ	ギシギシ類	一年生イネ科	多年生イネ科
19	トワ77/サト粒剤2.5 〔トワ77/サト〕 -H5,H18	トワフルリン 2.5%	全面土壌散 布	は種後(雑草発生前) 4~5kg	は種後(雑草発生前) 4~5kg	大麦	●												1. 砂土及び過湿の透水不良ほ場での使用は避ける。 2. 雑草発生前に散布する。 3. 砂土・堅地は土塊が出来るだけ細かくなるように丁寧に行う。 4. 土壌が乾燥している場合は効果は劣るので、土壌が適度な水分の時に散布する。 5. 重複散布は葉害の恐れがあるので、散布ムラがないよう均一に散布する。		
20	ハ-モー75DF ハ-モーDF 〔DPX-16〕 -H12,H21	チフェンスルプロメシル 75%	雑草茎葉散 布又は全面 散布	麦の幼穂形成期(春) 7.5~10g (収穫45日前まで)	麦の3~5葉期 3~5g		●												1. 散布液の飛散や流出によって有用植物に葉害が生ずることがないように十分に注意して散布する。 2. 本剤散布に用いた器具類は、タンクやホース内に薬液が残らないよう、使用後できるだけ早く専用の洗浄剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合葉害の原因にならないように注意する。 3. 葉が変色することがある。 4. キンギン類に対して処理後3週間頃から抑制効果が現れるが、効果の完成に7~8週間かかる場合がある。		
21	ハサグリン液剤 (ナトリウム塩) 〔BAS-3510(Na)〕 -H元,H18	ハンガン 40%	雑草茎葉散 布又は全面 散布	麦の幼穂形成期(春) (春生えのみ) 100~150ml (収穫45日前まで)	小麦5葉期 (雑草3~5葉期) 100~200ml (収穫45日前まで)		●												1. 散布後に降雨があると効果が劣るので、なるべく晴天の続く見込みの時期に散布する。 2. シロザおよびタニソバに対しては低薬量では効果が劣ることがある。 3. 雑草が大きくなると効果が劣る。 4. 緑肥クローノハを播種する場合は、本剤の散布後10日以降にする。		
22	ホクサ- 〔SYJ-100〕 H17,H23,H24,H25,H28	フロスルホカルブ 78.4%	雑草茎葉散 布又は全面 土壌散布	は種後~麦2葉期まで (雑草発生前~雑草発生始 期) 400~500ml(水量50~ 100L)、麦2葉期~4葉期、70~ 100L) ※春まき小麦品種の初冬ま き栽培 春期 小麦4葉期まで (雑草発生始期まで) 400~500ml	は種後出芽前~出芽 摘期(雑草発生前~ 雑草発生始期まで) 400~500ml	は種後~出芽 摘期(雑草発生 前~発生始) 500ml	●												1. 麦の葉身に葉斑、葉の褐変、黄化等が生じる場合があるが、速やかに回復する。 2. 排水不良の圃場や多量の降雨が予想される時は使用を避ける。 3. 覆土が浅いと葉害を発生し易くなるので、覆土は3cm程度とする。 4. 春まき小麦品種の初冬まき栽培は、農業登録上、秋まき小麦として取り扱われる。 2 1. 麦の葉身に葉斑、葉の褐変、黄化等が生じる場合があるが、速やかに回復する。 2. 排水不良の圃場や多量の降雨が予想される場合は使用を避ける。 3. 覆土が浅いと葉害を発生し易くなるので、覆土は3cm程度とする。		

(1) 薬 類

(1) 表 類

薬 剤 番 号	商 品 名 〔試験番号〕 指導参考年次	有 効 成 分 名 及 び 含 有 量 (%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量			対象雑草		効果の程度								本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂				
			秋 まき小麦	春 まき小麦	大 麦	一年生雑草	一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	広葉雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類	ハコベ	ナズナ				スカシタゴボウ	ギシギシ類	一年生イネ科	多年生イネ科
23	ムキリンジャー乳剤 〔MBH-075〕 -H29	フロスルホカルブ 46.0% リニエロン 11.5%	全面土壌散 布	は種後出芽前(雑草発生前) 300~600ml (水量25~100L)		大麦	●													1	1.少量散布(25~50L/10a)の場合は専用ノズルを使用する。 2.葉先の白化、折れ、枯れなどが生じる場合があるが、速やかに回復する。 3.砂壌土では黄化、生育抑制を生じる場合があるので、登録範囲内の低めの薬量で使用する。	
24	ラウンドアップマックスロード 〔NC-622液剤〕 -H30、H31	グリホサート・グリナム塩 48%	雑草茎葉散 布	耕起または小麦は種前、雑 草生育期(草丈30cm以下) 200~500ml 水量 5~6L			●													3	1.本剤は展着剤を加用しない。 2.散布後一定時間降雨のない日に散布する(剤によって1~6時間)。 3.周辺の作物に薬液がかからないよう注意するとともに、ドリフト低減ノズル(ラウンドノズル等)の使用が望ましい。 (少量散布) 1.専用ノズルを使用する。	
25	ロウツクス 〔リニエロン〕 -S40	リニエロン 50%	全面土壌散 布	は種直後(雑草発生前~発 生始期) 100~150g			●													1	1.砂土系で透水性のよい場合や、多量の降雨が続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用を避ける。	
26	MCPワーダ塩 〔MCP〕 -S37、H20、21	MCPAナトリウム塩 19.5%	雑草茎葉散 布又は全面 散布	麦の幼穂形成期(春) 300g(水量25~100L) 200~300g (水量25~100L) (収穫45日前まで)	麦の5葉期 (雑草生育初期) 200~300g (水量25~100L) (収穫45日前まで)	麦の5葉期 (雑草生育初期) 300g (収穫45日前まで)	●	●												1	1.除草効果は、高温、晴天時で生育の盛んなときほど高いので、日中気温が20℃以上の好天日を選び散布する。 2.越年草やタデ類などは、枯殺に至らない場合があるが、種子をつけないが、地面には生き残ることが多い。 3.クローバー混播の場合は、クローバーに薬害が生じるので、クローバー本葉の2葉期以降に散布する。 (少量散布) 1.専用ノズルを使用する。	

注:対象雑草の多年生イネ科はシバムギ・レドトップを示す。

(2)とうもろこし(生食用)

(2)とうもろこし(生食用)

薬 劑 番 号	商 品 名 〔試験番号〕 指 導 参 考 年 次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使 用量	対象雑草				毒性	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂		
				一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	広葉雑草					多年生雑草	効果の程度
				一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	広葉雑草	多年生雑草	シロザ	タネ類	ハコベ	ツユクサ	一年生イネ科
1	カイタツグ乳剤 [PL-10] -H7	ベンゾイメタリン 15% リニクロル 10%	全面土壌散布 は種直後～は種後5日 (雑草発生前) 400～500ml	●					○	○	○	○	○
2	カイタツグ細粒剤F [PL-10] -H8	ベンゾイメタリン 1.5% リニクロル 1%	全面土壌散布 は種直後(雑草発生前) 5～6kg	●					○	○	○	○	○
3	クワターン乳剤 [KUH-901] -H7,H11,H12	ベンゾオカローブ 50% ベンゾイメタリン 5% リニクロル 7.5%	全面土壌散布 は種直後(雑草発生前) 500～800ml	●					○	○	○	○	○
4	ケザンゴールド [CG-123α] -H12	アトラジン 27.8% S-メトラロール 26.4%	全面土壌散布 は種後発芽前(雑草発生前) 140～200ml 生育期 (作物2～4葉期) 全面土壌散布 140～200ml	●					○	○	○	○	○
5	ケサカート50 [フロトリン] -S59	フロトリン 50%	全面土壌散布 は種直後 150～200g	●					○	○	○	○	○
6	ケサフリムフロアブル [アトラジン] -S59	アトラジン 45%	全面土壌散布 は種後～出芽前 (雑草発生前) 100～200ml 雑草発生前期まで (作物の2～4葉期) 全面土壌散布 及び雑草茎葉 散布 100～200ml	●					○	○	○	○	○
7	コールド水和剤 [NK-1101] -H29	S-メトラロール 24.8% フロトリン 26.6%	全面土壌散布 は種後～出芽前 (雑草発生前) 225～300g(水量70～100L)	●					○	○	○	○	○

(2)とうもろこし(生食用)

(2)とうもろこし(生食用)

薬 剂 番 号	商 品 名 〔試験番号〕 指 導 参 考 年 次	有 効 成 分 名 及 び 含 有 量 (%)	使 用 方 法 及 び 使 用 時 期、10a 当 たり 使 用 量	対 象 雑 草	効 果 の 程 度					本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂	
					一 年 生 雑 草	イ ネ 科 雑 草	一 年 生 雑 草	広 葉 雑 草	多 年 生 雑 草				シ ロ ザ
8	ゴゴーンザン乳剤 [ANK-553] -S55.S59	ペンテイタリン 30%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前) 200~300ml	●	○	○	○	○	○	○	1	1. 雑草の生育が遅むと効果が低下するので、雑草の発生前か発生初期に散布する。 2. 処理時期が遅れると、葉害が生じることがある。 3. ツユクサ、キク科雑草に効果が劣る。 4. 後作物としてかぼちや等のうり科やほうれんそう及びそばを作付けると生育を抑制することがあるの で避ける。	
9	ゴゴーンザン細粒剤F [ANK-553] -H4	ペンテイタリン 2%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前) 5~6kg	●	○	○	○	○	○	○	1	1. 土壌が乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分の時に散布する。 2. 雑草の生育が遅むと効果が低下するので、雑草の発生前か発生初期に散布する。 3. 処理時期が遅れると、葉害が生じることがある。 4. 重積散布は葉害の恐れがあるので、散布ムラがないよう均一に散布する。 5. ツユクサ、キク科雑草に効果が劣る。 6. 後作物としてかぼちや等のうり科やほうれんそう及びそばを作付けると生育を抑制することがあるの で避ける。 7. 青果用品種(ハースコート系)には、道の試験成績が無いので除く。	
10	サターンハブ乳剤 [パンオカブ・プロマリ] J-S59	フロトリン 5% パンオカブ 50%	全面土壌散布 は種後・発芽前 800~1,000ml	●	○	○	○	○	○	○	1	1. 雑草の発生後では効果が劣る。 2. タテ、シロザ、ハコベに対しては、葉量が少ないと効果の劣る場合がある。	
11	テュアールコート [OG-119α] -H12.H20	S-アラコロール 83.7%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前) 70~100ml 作物の1~2葉期 (イネ科雑草2葉期まで) 70~100ml	●	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土では使用しない。 2. 砂土系で透水性のよい場合や、多量の降雨の続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を選 ける。 3. 水稲に葉害が生じる恐れがあるため、使用ほ場における当年または翌年の水稲栽培を避ける。	
12	ハサガン液剤 (ナトリウム塩) [BAS-3510(Na)] -S61	ペンタン(ナトリウム塩) 40%	雑草茎葉散布 又は全面散布 雑草の3~4葉期 100ml(4収穫5日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	1	1. 散布後 晴天、降雨日が長く続くなど効率が劣ることがあるので、晴天を見計らって散布する。 2. 高温条件下では葉害が生じやすいので、異常高温下での散布は避ける。 3. 青果用品種(ハースコート系)には道の試験成績が無いので除く。	
13	ハスガ液剤 [Hoe-866液剤] -E86	グリホサート 18.5%	雑草茎葉散布 (畦間処理) とうもろこし生育期・ 雑草生育期(草丈30cm以下) 300~500ml ↓ 収穫7日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	3	1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に積度長く 散布することが必要である。 2. 非選択剤の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に葉害を生じる。	新
14	ワールスターP乳剤 [BAS-656乳剤] -H22.H24.H25	ジメタナトP 64.0%	全面土壌散布 は種後~2葉期 (イネ科雑草2葉期まで) 75~120ml	●	○	○	○	○	○	○	1	1. 発芽後の雑草に対しては、効果が劣るので時期を失しないように散布する。 2. 砂土では使用しない。	
15	ワールスターP7フル [SL-573 F] -H27	トリピラレート 10.4%	雑草茎葉散布 又は全面散布 作物の3~5葉期、 雑草生育期(草丈15cm以下) (但し収穫45日前まで) 40~50ml	●	○	○	○	○	○	○	1	1. イネ科雑草が多いほ場では、高葉量で使用する。 2. 一過性の葉身黄化症状が生じることがある。	

(2)とうもろこし(生食用)

(2)とうもろこし(生食用)

薬 剤 番 号	商 品 名 〔試験番号〕 相導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使 用量	対象雑草					効果の程度	本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂					
				一 年 生 雑 草	イ ネ 科 雑 草	一 年 生 雑 草	広 葉 雑 草	多 年 生 雑 草				シ ロ ザ	タ テ 類	ハ コ ベ	ツ ユ ク サ	一 年 生 イ ネ 科
16	ボクサー 〔SYJ-100〕 -H19	フロムホリカルブ 78.4%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前) 400～500ml	●					○	○	○	○	○	○	1	1. 排水不良の圃場や多量の降雨が予想される時は使用を避ける。 2. 穂土が浅いと薬害を発生し易くなるので、穂土は3cm程度とする。
17	モアライ乳剤 〔BAH-0805乳〕 -H23	ジメチルTP 19.7% ヘンチイタリン 23.1%	全面土壌散布 は種後～作物の2葉期 (イネ科雑草2葉期まで) 200～400ml	●					○	○	○	○	○	○	1	1. 多量の降雨が緑く時期の散布及びマルチ栽培では、薬害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 砕土、聖地はていないに行い、種子が露出しないように穂土はていないに行い、穂土深さ2～3cm以上とする。 3. 後作物としてかぼちや等のうり科やほうれんそう及びそばを作付けると生育を抑制することがあるの で避ける。 4. 砂土では、使用しないこと
18	ラッソー乳剤 〔アラゴール〕 -S58, S59, H20	アラゴール 43%	全面土壌散布 は種後～出芽前 (雑草発生前) 200～300ml	●					○						1	1. 土壌が乾いていると効果がある。
19	ロツカス 〔リニエロ〕 -S41	リニエロ 50%	雑草茎葉散布 又は全面土壌 散布 全面土壌散布 は種直後 100～150g	●	●				○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨の緑く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用を避 ける。 2. 雑草が大きくなると効果があるので、雑草の発生前か発生初期に散布する。 3. 青果用品種(ハート系)については、薬害の恐れがあるので使用しない。
20	MCP/タ塩 〔MCP〕 -S31	MCP/ナトリウム塩 19.5%	雑草茎葉散布 又は全面散布 作物の2～3葉期 300g		●				○	○	○	○	○	○	1	1. 散布直後に降雨があると効果が劣るので、なるべく好天の緑く早込みの時期に散布する。 2. 高温条件下では薬害が生じやすいので、異常高温下での散布は避ける。 3. 青果用品種(ハート系)には道の試験成績が無いので除く。

(3)豆類

(3)豆類

薬剂番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量			対象雑草		効果の程度					本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂	
			大豆	小豆	菜豆(いんげんまめ)	えん豆	一年生雑草	イネ科雑草	一年生広葉雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類				ハコベ
1	エノコサP乳剂 〔NM-536-P〕 -H24	ジメチアトP 8.5% リンコロン 12%	大豆 は種後出芽前 (雑草発生前) 400~600ml	小豆	菜豆(いんげんまめ)	えん豆	●							1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、散布後の多量の降雨は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 本剤は眼に強い刺激性があるので、散布液調製時に保護メガネを着用して、薬剤が眼にはいらないように注意する。	
2	クワターン乳剂 〔KUH-901〕 -H7,H13	ベンチオカーブ 50% ハンテイタリン 5% リンコロン 7.5%	大豆 は種直後 (雑草発生前) 600~800ml (水量70~100L)				●							1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 初生葉が黄化、萎縮することがある。 3. ツユクサ、キク科雑草に効果が劣る。 4. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やほうれんそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。	
3	フロIPC乳剂 〔IPC〕 -S31	IPC 45.8%	大豆 は種後出芽前 200ml	小豆 は種直後200ml			●							1	1. 砂質土壌での使用は避ける。 2. 土壌が乾いていると効果が劣り、過湿のときは葉害が生じやすいので、適湿のとき使用する。 3. 生長した雑草には効果が劣るので、発生前に散布する。 4. 気温が20℃以上のときは効果が劣る。	
4	ケサカート50 〔フロトリソ〕 -S38,H2	フロトリソ 50%	大豆 は種直後100~150g				●							1	1. 砂土系で透水性のよいほ場、及び出芽前処理や多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前から発生初期に散布する。	
5	ゴダールS水和剤 〔NK-1101〕 -H27	s-メトラロール 24.8% フロトリソ 26.6%	大豆 は種後出芽前 (雑草発生前) 225~300g (水量70~100L)				●							1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前から発生初期に散布する。 3. 水稲に葉害が生じる恐れがあるため、使用ほ場における当年または翌年の水稲栽培を避ける。	
6	サタンハプロ乳剂 〔ヘンチオカーブ-フロトリソ〕 -S47	フロトリソ 5% ベンチオカーブ 50%	大豆 は種後出芽前 800~1,000ml				●							1	1. 雑草の発生後は効果が劣る。	
7	サカ液剤 〔AH-01〕 -H22	ケルホネトPトリウム塩 11.5%	大豆 は種直後100~150g				●							3	1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布する。 2. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に葉害を生じる。 3. 雑草の草丈30cm以下で散布する。	

(3)豆類

(3)豆類

薬剤番号	商品名 [試験番号] 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量			対象雑草		効果の程度					毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
			大豆	小豆	菜豆(いんげんまめ)	えん豆	一年生雑草	一年生広葉雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類	ハコベ				
8	レノ乳剤 [S-604], [ALH0831], -H8,H12,H16, H24	フルトラム 24%	雑草茎葉 散布又は 全面散布 (収穫50日前まで)	イネ科雑草3~5葉期(スズメノカタビを除く) 35~50ml (収穫45日前まで)	菜豆(いんげんまめ) (収穫60日前まで)	えん豆	●	○				○		1	1. やや遅効性であり、効果の発現には1週間程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用使用する。 3. 低温時には、効果が劣る場合がある。	
9	大豆ハサガラ液剤 (ナリウム塩) [BAS-3510(Na)], -H18,H21,H25	ベンゾアゾナリウム塩 40%	雑草茎葉 散布又は 全面散布 (雑草の生育初期~6葉 期まで) 100~150ml (収穫45日前まで)	スズメノカタビ3~5葉期 50~75ml (収穫45日前まで)	(収穫60日前まで)		●	○					○	1	1. やや遅効性であり、効果の発現には2~3週間程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. 50ml/10aの薬量では、スズメノカタビに効果が不十分な場合がある。 3. 低温時には、効果が劣る場合がある。	
10	ダイロソル [HCW-201] -H24	DOMU 50%	畦間散 布・株間 散布	畦間・株間散布 大豆生育期(本葉5葉期 以降)、雑草生育期 150~200ml (収穫30日前まで)	畦間散布 小豆生育期、雑草生 育期 100~200ml (収穫30日前まで)		●	○	○	○	○	○	○	1	1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布する。 2. 作物に飛散すると付着した部分に葉害を生じる。 3. 低薬量では、イネ科雑草に対する効果が劣る。	
11	デュアルコート [CG-119 α] -H12	S-オラロール 83.7%	全面土壌 散布	は種後出芽前 (雑草発生前) 70~100ml	は種後出芽前 (雑草発生前) 70~100ml		●	○						1	1. 砂土では使用しない。 2. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨の続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 3. 水稲に葉害が生じる恐れがあるため、使用ほ場における当年または翌年の水稲栽培を避ける。	

(3)豆 類

(3)豆 類

薬 劑 番 号	商 品 名 〔試験番号〕 指 導 参 考 年 次	有 効 成 分 名 及 び 含 有 量 (%)	使 用 方 法 及 び 使 用 時 期、10a 当 たり 使 用 量				対 象 雑 草		効 果 の 程 度					本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
			大豆	小豆	菜豆1) (いんげんまめ)	えん豆	一年生雑草	一年生広葉雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類	ハコベ	ツユクサ			
12	トリアリノプロフェル [NP-66H] -R3,R4	ヒロキサリポル 3.4% リニエロン 24%	全面土壌 散布	は種後出芽前 (雑草発生前) 250~350ml				●	○	○	○	○	○	1	1. 乾燥条件では高薬量(350ml)で使用する。 2. 稲、大豆、ソルガムに葉害を生じるおそれがあるので、 散布した当年または翌年の栽培を避ける。	
13	トリアリノプロフェル [NP-66H] -H7,H24	トリフルリン 44.5%	全面土壌 散布	は種後出芽前 (雑草発生前) 200~300ml		出芽前 (雑草発生前) 200~300ml		●	○					1	1. 砂土での使用は避ける。 2. 菜豆では初生葉が縮葉することがある。	
14	ナブ乳剤 [NP-55] -S57,H2,H21, H23,H25,H26,R4	セキソジム 20%	雑草莖葉 散布又は 全面散布	一年生イネ科雑草3~5葉期 150~200ml	(收穫14日前まで) (收穫30日前まで)	(收穫14日前まで) (收穫30日前まで)		●	○					1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 初果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度要 するので誤ってまき直しなどしないようにする。	
15	ハガアラ液剤(ナド) [BAS-3510(Na)] -S55,H20	ベンゾジメチルピリウム塩 40%	雑草莖葉 散布又は 全面散布	一年生イネ科雑草6~8 葉期(スズメノカタビラを除く) 200ml(水量25~50L) (收穫30日前まで)	(收穫14日前まで) (收穫30日前まで)	(收穫14日前まで) (收穫30日前まで)			○			○		1	1. 少量専用ノズルを使用する。	
16	ハスタ液剤 [Hoe-866] -H21,H23	グルホシネート 18.5%	雑草莖葉 散布又は 全面散布	雑草莖葉 散布又は 全面散布	雑草莖葉 散布又は 全面散布	雑草莖葉 散布又は 全面散布		●	○					1	1. 散布後、曇天、降雨が続くと効果が劣るので、晴天時に 散布する。 2. 高温条件下では、葉害を生じやすいので、異常高温下 での散布は避ける。	
16	ハスタ液剤 [Hoe-866] -H21,H23	グルホシネート 18.5%	畦間散 布・株間 散布	畦間雑草散布 大豆生育期 (雑草生育期) 300~500ml (收穫28日前まで)	株間処理 本葉5葉期以降雑草生 育期 300~500ml (收穫28日前まで)			●	○					3	1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方 法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布す ることが必要である。 2. 株間処理についても飛散防止装置を装着し、株間に精 度良く散布する。 3. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部 分に葉害を生じる。	

(3)豆類

(3)豆類

薬劑番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量			対象雑草							効果の程度	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
			大豆	小豆	菜豆(いんげんまめ)	えん豆	一年生雑草	イネ科雑草	一年生広葉雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類				
17	ハローカイケイ液剤 [AC-263] -H8,H9,H10, H11,H20,R4 -H21,H23,H27	イサモクガスアゾモエウム 塩 0.85%	雑草茎葉 散布又は 全面土壤 散布	出芽直前～出芽期 (雑草発生始期～発生始期) 200～300ml	出芽直前～出芽期 (雑草発生始期～発生始期) 200～300ml	出芽直前～出芽期 (雑草発生始期～発生始期) 200～300ml	えん豆		●					1	1. 雑草の発生始期から幼少期にかけて高い効果を示すので、使用時期を逸さないように散布する。 2. 使用時期を逸すと作物の生育に影響が出る恐れがある。 3. 有機燐系殺虫剤又はイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、葉害の恐れがあるので避ける。 4. 周辺の作物に薬液がかからないよう十分注意する。	
18	ビンサト乳剤 [HSW-971] -H11,H12	フロムリン 15% IPC 25%	全面土壤 散布	大豆生育期(雑草発生始期～2葉期まで) 200～300ml (収穫30日前まで)	小豆生育期(雑草発生始期～2葉期まで) 200～300ml (収穫30日前まで)	菜豆生育期(雑草発生始期～2葉期まで) 200～300ml (収穫30日前まで)	えん豆		●					1	1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布する。 2. 作物に飛散すると葉害を生じるおそれがある。 3. 低葉量では効果が劣ることがある。	
19	フィールドスターP乳剤 [BAS-656乳剤] -H14	シガチナミドP 64.0%	全面土壤 散布	は種後(雑草発生前)330～400ml			えん豆		●					1	1. 砂土系で透水性のよい土壌では、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 高温乾燥時及び散布後高温が予想される条件下では、葉害又は効果不足を生じる恐れがあるので使用を避ける。 3. 生長した雑草や深根雑草には、効果が期待できない。	
20	フルミオWDG [S-482] -H20,H22	フルミオキサジン 50%	全面土壤 散布	は種後(雑草発生前)75～120ml		は種後(雑草発生前)75～120ml	えん豆		●					1	1. いんげんまめに使用するとき、品種により葉害を生じることがあるので「金時類」以外には使用しないこと。 2. 砂土では使用しない。	
21	フローララ乳剤 [BAH-1114] -H26	シガチナミドP 6.7% ベンデイタリン 6.5% リニエロド 11.4%	全面土壤 散布	は種後(雑草発生前)400～600ml		は種後(雑草発生前)5～10g	えん豆		●					1	1. 処理時期が出芽期に近いと生育抑制を生じる場合があるので、処理が遅れないようにする。 2. 本剤は使用後著しい降雨があると、初生葉に萎縮を生じるおそれがある。 3. 本剤散布に用いた器具類は、タンクホース内に薬剤が残らないよう、使用後できるだけ早く、専用の洗剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、葉害の原因にならないよう注意する。 1. 後作物としてかぼちゃや等のうり科やほうろくそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。	

(3)豆類

(3)豆類

薬剤番号	商品名 [試験番号] 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量				対象雑草				効果の程度						本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
			大豆	小豆	菜豆(いんげんまめ)	えん豆	一年生雑草	一年生広葉雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類	ハコベ	ツユクサ	一年生イネ科	スズメノカタビ	大豆			
22	ホーネット乳剤 [NC-360] -H10,H22	7-フロロキゾム 10%	大豆 (収穫14日前まで)	イネ科雑草3~5葉期 75~100ml (収穫60日前まで)	菜豆(いんげんまめ) (収穫45日前まで)	えん豆	●								1	1. 遅効的であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに7~10日(スズメノカタビは2~3週間)を要するので、誤ってまき直ししないように注意する。 2. スズメノカタビには効果が不十分な場合がある。 3. 広葉雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。			
23	ホルトフロアブル [NC-360] -H9,H11,H23	キサロホップエチル 7%	大豆 (収穫14日前まで)	イネ科雑草6~8葉期(スズメノカタビを除外) 75~100ml (収穫14日前まで)			●								大豆 2、その他 1	1. スズメノカタビを除外して一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカタツリグサ科の雑草には効果が無いので、これらの雑草が混発する場合は有効な除草剤との体系で使用する。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直ししないように注意する。 4. たいすの葉に褐点を生じることがあるが、その後の生育に影響はない。 5. (少水量散布)専用ノズルを使用する。			
24	ラクトアフロマックス ロート [NC-622液剤] -H30、H31	グリホサートガリウム塩 48%	大豆 耕起または大豆は種前、雑草生育期(草丈30cm以下) 200~500ml 水量 5~6L	イネ科雑草3~8葉期 200~300ml(水量25~50L/10a) (収穫30日前まで)			●								2	1. 本剤は展着剤を加用しない。 2. 散布後一定時間降雨のない日に散布する(剤によって1~6時間)。 3. 周辺の作物に薬液がかからないよう注意するとともに、ドリフト低減ノズル(ラウンドノズル等)の使用が望ましい。(少水量散布) 1. 専用ノズルを使用する。			
25	ラカサー乳剤 [AL-513乳剤] -H21	7-フロロキゾム 30% リニエロン 12%	大豆 耕起または大豆は種前、雑草生育期(草丈30cm以下) 200~500ml 水量 5~6L	イネ科雑草3~8葉期 75~100ml (収穫60日前まで)	菜豆(いんげんまめ) (収穫45日前まで)	えん豆	●								1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨の続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 土壌が乾いていると効果が劣る。			
26	ラカサー乳剤 [7-フロロキゾム] -S54,S55,S56	7-フロロキゾム 43%	大豆 耕起または大豆は種前、雑草生育期(草丈30cm以下) 200~500ml 水量 5~6L	イネ科雑草3~8葉期 75~100ml (収穫60日前まで)	菜豆(いんげんまめ) (収穫45日前まで)	えん豆	●								1	1. 本葉1~2葉の一部が欠損縮葉することがある。			

(3)豆 類

(3)豆 類

薬剂番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量				対象雑草						効果の程度						本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
			大豆	小豆	菜豆1) (いんげんまめ)	えん豆	一年生雑草	イネ科雑草	一年生広葉雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類	ハコベ	ツユクサ	一年生イネ科	スズメノカタビ					
27	ロウカス [リニロン] -S40.S42.H24	リニロン 50%	畦間散 布・株間 散布	茎葉土壌処理 (畦間・株間) 大豆生育期(本葉5葉期 以降)、雑草生育期(草 丈15cm以下) 100~200g(収穫30日前 まで)													1. 飛散防止装置を装着し、作物にかからないように畦間、株間に精度良く散布する。 2. 作物に飛散すると付着した部分に葉害を生じる。				
28	ロウカス [リニロン] -S40.S42	リニロン 50%	全面土壌 散布	は種直後 100~150g													1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生直前か発生初期に散布する。				
29	ワンドロウWG [SL-122顆粒水和 剤] -H28	フルアジホップP 7.0% リニロン 30.0%	全面土壌 散布	は種後出芽前 (雑草発生前) 300g													1. 砂質土で透水性のよい畑や多量の降雨が続く時期の散布は葉害の恐れがあるので仕様を避ける。				
30	ワンドロウP乳剤 [SL-236(L)] -S62.H元.H22	フルアジホップP 17.5%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	イネ科雑草3~5葉期 75~100ml(水量25~100L/10a) (収穫60日前まで)													1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草とスズメノカタビラが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 選効性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 (少水量散布) 1. 専用ノズルを使用する。				

(4)ばれいしよ

薬 劑 番 号	商 品 名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名及び 含有量(%)	使用方法及び使用時期、 10a当たり使用量	対象雑草					効果の程度					毒 性	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
				一 年 生 雑 草	イ ネ 科 雑 草	一 年 生 雑 草	一 年 生 雑 草	多 年 生 雑 草	シ ロ ザ	タ ネ 類	ハ コ ベ	ツ ユ ク サ	一 年 生 イ ネ 科				

(4)ばれいしよ

①萌芽前散布

1	クラマックス水和剤 [SKH-01] -S49,S63	シアザリン 50%	全面土壌 散布	植付後～萌芽前 100～150g	●									1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用は避ける。 2. 雑草の発生前から発生始期に有効である。 3. 高温時の処理は、薬害を生じる恐れがあるので注意する。 4. イネ科雑草に効果がやや劣る。	
2	クلمات乳剤 [S-28] -S57	アミノホス 50%	全面土壌 散布	植付後～萌芽前(雑草発生前) 300～400ml	●									1	1. キク科雑草に効果が劣る。	
3	ゴーゴーン乳剤 [ANK-553] -S55	ベンデメタリン 30%	全面土壌 散布	植付後～萌芽前(雑草発生前) 200～300ml	●									1	1. 雑草の生育が進むと効果が低下するので、雑草の発生前から発生始期に散布する。 2. 処理時期が遅れると、薬害を生じることがある。 3. ツユクサ・キク科雑草に効果が劣る。 4. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やほうれんそう及びそぼを作付けると生育を抑制することがあるので避ける。	
4	ワカ液剤 [AH-01] -H19	カルホスネーPナトリウム塩 11.5%	雑草茎葉 散布	雑草生育期(萌芽前処理) 100～200ml (水量 100～150L)	●									1	1. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に薬害を生じる。	
5	セコル水和剤 [INTN-70] -S50	メトリアジン 50%	全面土壌 又は 雑草茎葉 散布	植付後～萌芽直前 100g	●									1	1. 有機質含有量の少ない砂土系の土壌では薬害を生じやすいので使用を避ける。 2. 土壌の乾燥が続く場合は、効果の劣ることがある。 3. 散布後、多量の降雨があると、薬害を生じる恐れがある。 4. 品種によっては、葉の黄化等の薬害を生じることがある。 5. 散布機の始動時、林地等重複散布によって薬害(ばれいしよ及び後作の秋まき小麦)を生じることがあるので注意する。 6. 散布当年のばれいしよ後作物にだいこん・はくさいを作付けする場合、処理後100日以上経過してからは種、または移植する。 7. 探種ほ場では、散布が遅れるとウィルス病株と混同する恐れがある。	
6	クワダガンQ [ZK-122] -H20	グリホサートトリウム塩 44.7%	茎葉処理	植付後萌芽前 (雑草生育期:草丈30cm以下) 250～500ml (散布水量25～50L/10a)	●									1	1. 本剤は悪書剤を加工しない。 2. 散布後一定時間(時間降雨のない日)に散布する。 3. 周辺の作物に薬液がかからないよう注意するとともに、飛散の少ないラウンドノズルの使用が望ましい。 (少量散布) 1. 専用ノズルを使用する。	
7	ダイロンブル [HCW-201] -H22	DCMU 50%	土壌散布	植付後萌芽前(雑草発生始期) 100～200ml	●									1	1. 低薬量では除草効果が劣る場合がある。	
8	ファン乳剤 [NH-611] -H18	ヒラフルメタフェル 0.4%	雑草茎葉 散布	植付後～萌芽前(雑草発生期) 150～250ml		●								1	1. 散布後に発生した雑草には効果が無い。	
9	ハス外液剤 [Hoe-866] -S63	グリホサート 18.5%	雑草茎葉 散布	植付後～萌芽前(雑草発生期) 200ml	●									1	1. 散布後6時間以内に降雨が予想される場合は散布を避ける。	

(4)ばれいしよ

(4)ばれいしよ

薬 剂 番 号	商 品 名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名及び 含有量(%)	使用 方法 及び 使用 時期、 10aあたり使用量	対象雑草			効果の程度					本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂	
				一 年 生 雑 草	イ ネ 科 雑 草	一 年 生 草	一 年 生 雑 草	多 年 生 雑 草	シ ロ ザ	タ ネ 類	ハ コ ベ				ツ ユ ク サ
10	アートルトスターP乳剤 [BAS-656] -R4	シナリトP 64.0%	全面土壌 散布 植付後萌芽前(雑草発生前) 75~120ml (散布水量100L)	●			○					○	1	1. 砂土では使用しないこと。	
11	フルミワWDG [S-482顆粒水和剤] -H28	フルミオキサジン 50%	全面土壌 散布 植付後萌芽前(雑草発生前) 10g	●			○						1	1. 砂土での使用は避ける。 2. 処理時期が萌芽後に近いと薬害を生じるおそれがあるので、処理を遅れないようにする。 3. ばれいしよの萌芽後に使用すると薬害が生じるので、必ず萌芽前に使用する。 4. 使用後暑しい降雨があると、綿葉・褐変・初期の生育抑制を生じるおそれがある。 5. 本剤散布に用いた器具類はタンク・ホース内に薬剤が残らないよう、使用後出来るだけ早く、専用の洗剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないようにする。	
12	ボクサー乳剤 [SYU-100] -H19	フロルホルカルブ 78.4%	全面土壌 散布 植付後萌芽前(雑草発生前) 400~500ml (水量100L)	●			○						1	1. スズメノカタビラに対しても効果がある。	
13	ムキリンゾナー [MBH-075] -H29	フロルホルカルブ 46.0% リニロシ 11.5%	全面土壌 散布 植付後萌芽前(雑草発生前~発生 始期) 400~600ml (水量100L)	●			○						1	1. イネ科雑草が優先する圃場では規定量の範囲内で高草量で使用する。 2. 砂質土で透水性のよい畑では薬害を生じることもあるので散布を避ける。 3. 本剤は後作物に対して影響を及ぼすことがあるので注意する。特にアブラナ科、ウリ科、ナス科及びマメ科の作物は影響を受けやすいので、本剤処理後3ヶ月以内これら後作物として栽培しない。	
14	モテワ乳剤 [BAH-0805] -H26	ジメチアトP 19.7% ベンチイメタリン 23.1%	全面土壌 散布 植付後萌芽前(雑草発生前) 200~400ml	●			○						1	1. スズメノカタビラにも効果がある。 2. 萌芽直前の散布では一過性の縮葉が生じる場合がある。 3. 後作物として、かぼちゃ等のつり科やほづれんそう及びそぼを作付けすると生育を抑制することがある。 4. 砂土では使用しないこと	
15	フクサー乳剤 [AL-513] -H21	アラクロール30% リニロシ12%	全面土壌 散布 植付後萌芽前(雑草発生前) 400~600ml	●			○						1	1. 一過性の縮葉を生じることもあるので、種ばれいしよ栽培での使用に際しては留意する。	
16	ツツノ乳剤 [アラクロール] -S57	アラクロール43%	全面土壌 散布 植付後~植付14日後まで (雑草発生前) 300~400ml										1		
17	ロウカス [リニロシ] -S40/H19	リニロシ50%	全面土壌 散布 植付直後~萌芽前(雑草発生始期) 100~150g	●			○						1	1. 一年生イネ科雑草が多く発生する場合は非イオン系展着剤を加用する。 2. 砂土系で透水性の良いほ場や、多量の降雨が緑く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用を避ける。	

(4)ばれいしよ

(4)ばれいしよ

薬 剂 番 号	商 品 名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名及び 含有量(%)	使用方法及び使用時期、 10aあたり使用量	対象雑草					効果の程度					本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
				一 年 生 雑 草	イ ネ 科 雑 草	一 年 生 雑 草	一 年 生 雑 草	多 年 生 雑 草	シ ロ ザ	タ テ 類	ハ コ ベ	ツ ク サ	一 年 生 イ ネ 科			

②萌芽後雑草茎葉散布

1	セト乳剤 [ALH-0831] -H25	クトロシム 24.0%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	イネ科雑草3～5葉期 50～75ml (収穫30日前まで)	●								1	1. やや遅効性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1～2週間程度を要するので、誤って まき直ししないように注意する。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体 系で使用する。 3. スズメノカタビラに対しても効果があるが、低薬量では劣る場合がある。	
2	7乳剤 [NP-55] -H8,H23	セトキシム 20%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	イネ科雑草3～5葉期 150～200ml (収穫前日まで)	●								2	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7～10日程度を要するので、誤ってまき直ししないよう にする。	
3	ホルト707フル [NC-360] -H19	キサロプロツエチル 7.0%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	イネ科雑草3～8葉期 200～300ml (収穫前日まで)	●								1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカヤツリグサ科の雑草には効果がなく、これらの雑草が混在する場合は有効な 除草剤との体系で使用する。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直ししないように注意す る。	
4	7ンサイトP乳剤 [SL-236(L)] -H21,H26	7ルアジホップ 17.5%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	イネ科雑草3～8葉期 75～100ml (水量75～100L) (収穫前日まで)	●								1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草とスズメノカタビラが混在する場合は、これらの雑草に有効な 除草剤との体系で使用する。 3. 遅効性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるため、誤ってま き直ししないように注意する。	

③畦間散布

1	サカサ液剤 [AH-01] -H23	カルボシネートPナトリウム塩 11.5%	雑草茎葉 散布	雑草生育期(畦間処理) 300～500ml (水量100～150L) (収穫21日前まで)	●								2	1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精 度良く散布する。 2. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に葉害を生じる。	
---	--------------------------	-------------------------	------------	--	---	--	--	--	--	--	--	--	---	---	--

(5) てんさい

(5) てんさい

薬 劑 番 号	商 品 名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名及び 含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量		対象雑草		効果の程度						本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂		
			移植栽培	直播栽培	一年生雑草	一年生イネ科雑草	一年生イネ科	シロザ	タネ類	ハコベ	シユクサ	一年生イネ科			多年生イネ科	カス タ ビ ラ
1	カロIPO乳剤 〔CL-IPC〕 -S34	IPC 45.8%		全面土壌 散布	ば種直後200ml	●		○	○				○	○	○	1. 沖積土及び砂質土では薬害を生じやすいので注意する。 2. 気温が20℃以上のときには効果がある。
2	乳小乳剤 〔S604〕 -H8,H13,H28	クレドジム 24%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	一年生イネ科雑草の3～5葉期 35～50ml ・シバムギ・レドトップ・スズメノカタビラの3～5葉期 (収穫30日前まで)	●	●	○	○	○							1. やや運動性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1～2週間程度を要するので、誤ってまき直しなどに注意する。 2. 広葉雑草およびヤブツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 50ml/10aの薬量では、スズメノカタビラに効果が不十分な場合がある。 4. 低温時には、効果が劣る場合がある。
3	クワダウンIQ 〔ZK-122液剤〕 -R2	グリホサートカリウム塩 44.7%	雑草茎葉 塗布	一年生イネ科雑草の5～8葉期 50～75ml (収穫30日前まで)						○						1. やや運動性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1～2週間程度を要するので、誤ってまき直しなどに注意する。 2. 広葉雑草およびヤブツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 低温時には、効果が劣る場合がある。
4	チーフールゴールド 〔CG-119α〕 -H12,H22	s-トラコロール 83.7%	全面土壌 散布	生育期(雑草生育期) 2倍希釈(0.1mlを1～3箇所/株)	●					○						1. 専用の器具を用いて、作物に付着しないように塗布する。 2. 分枝の多い雑草には、2箇所以上塗布する。
5	ナフ乳剤 〔NP-65〕 -S68,H元,H20,H23	ゼトギジム 20%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	移植後(雑草発生前) 70～100ml (収穫30日前まで)	●	●	○	○	○							1. 砂土では使用しない。 2. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨の続く時期の散布は、薬害の恐れがあるので使用をさける。 3. 水稲に薬害が生じる恐れがあるため、使用準備における当年または翌年の水稲栽培を避ける。
			全面土壌 散布	一年生イネ科雑草の3～5葉期 (スズメノカタビラを除く) 150～200ml(水量100L) 200ml(水量100L) (収穫30日前まで)	●		○	○	○							1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は運動性で完全枯死までに7～10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないようにする。

(5) てんさい

(5) てんさい

薬 劑 番 号	商 品 名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名及び 含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量		対象雑草	効果の程度						本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂	
			移植栽培	直播栽培		一年生雑草	一年生イネ科雑草	一年生イネ科	シユクサ	ハコベ	タネ類			シロザ
6	ハーブラック顆粒水和剤 [LUPH-002] -H11, H15, H17, H20	メタロド 70%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	・移植活着後 (雑草発生初期) 400～600g (水量50～100L) (収穫30日前まで)	・てんさい子葉展開期～本葉 抽出期(雑草発生初期～発生 期) ・てんさい2葉期以降(雑草発 生初期～発生前期(収穫30日 前まで)) 250～350g (水量50～100L)	●							5	1. 生育の進んだ雑草には効果が劣る場合がある。 2. 非イオン系展着剤を添加する。 3. 雑草及び土壌全面に散布する。 4. 処理直後の降雨で効果が劣るので、降雨が予想される場合には散 布を避ける。 5. 直播についてはてんさいの葉齢が進んでいない幼少個体では生育 が抑制される場合がある。 6. シロザとハコベに対しては葉齢が進むと効果が劣る場合があるの で、雑草発生初期に散布することが望ましい。
7	ビートアップ7077 [LUPH-002] -H23, H29	フェンチアジド 16%	雑草茎葉 散布又は 全面土壌 散布	活着後(雑草発生前期) 400～600ml (収穫60日前まで)	・本葉2葉展開後 (雑草発生前期) 400～600ml (収穫60日前まで)	●							3	1. 雑草が大きくなると極端に効果が劣るので適期散布に努める。 2. 水量は、10a当たり90～100Lとする。 3. 低水量で効果が劣る場合がある。 4. 3葉期、4葉期に効果が劣る場合がある。
	-H29		一年生広葉雑草 茎葉処理 育苗期本葉展開後(雑草発 生初期) 500～750ml 水量 150L	・中耕後(雑草発生前期) 400～600ml (収穫60日前まで)										1. 雑草が大きくなると極端に効果が劣る。
	-H30			・子葉展開期～本葉抽出期 (雑草発生前期) 200～350ml 水量50～100L (収穫60日前まで)										1. 雑草が大きくなると極端に効果が劣るので適期散布に努める。 2. 非イオン系展着剤を添加する。 3. 低水量で効果が劣る場合がある。 4. 3葉期、4葉期に効果が劣る場合がある。
8	7-イートスターP乳剤 [BAS-650乳剤] -H20, H22, R3	ジメチルP 64.0%	全面土壌 散布	移植後(雑草発生前期) 75～120ml (水量70～100L) (収穫45日前まで)	中耕後(雑草発生前) 75～120ml (水量70～100L) (収穫45日前まで)	●							2	1. 直播でてんさいに使用する場合には、てんさいの葉齢が進んでいな い個体では、生育が抑制される場合があるので、中耕後(6葉期以降) に使用すること。 2. 土では使用しないこと
9	7-イートスターP乳剤 [BAS-9104S] -H12, H24, H29	7-イートスターP 2.3% フェンチアジド 10% S-オキサロール 7.5%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	活着後(雑草発生前期) 500ml (水量50～100L) (収穫90日前まで)	・中耕後(雑草発生前期(てんさい7葉期以降)) 500ml (水量50～100L) (収穫90日前まで)	●							1	1. 雑草が大きくなると効果が劣るので適期散布に努める。 2. 水量は、10a当たり90～100Lとする。 3. 水量が多くなるほど、また、葉液調製後の時間が経過するほど結 晶が生じ、散布機のノズルを詰まらせるので、葉液調製後は速やかに散 布する。 4. 高温時の散布は蒸着を生ずる恐れがあるので注意する。 5. S-オキサロール及び7-イートスターPに効果が劣る場合がある。

(5) てんざい

(5) てんざい

薬 劑 番 号	商 品 名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名及び 含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量		対象雑草	効果の程度							本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂		
			移植栽培	直播栽培		一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	一年生イネ科	シロザ	タネ類	ハコベ			シロクサ	一年生イネ科
10	ベクター乳剤 〔SW-4072〕 -S45,H28	7エンピ 477A 14.7%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	・活着後(雑草発生前期) 500~600ml (収穫60日前まで) ・中耕後(雑草発生前期) 500~600ml (収穫60日前まで) ・子葉展開期~本葉抽出期 (雑草発生前期) 150~200ml (収穫60日前まで)	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	3	1. 雑草が大きくなると極端に効果が劣る。 2. 水量は、10a当たり50~80Lとする。 3. 土壌が乾燥しているため効果が劣る傾向があるので水量を多めとする。 4. 水量が多くなるほど、また、薬液調製後の時間が経過するほど結晶が生じ、散布機のノズルをつまらせるので、薬液調製後は速やかに散布する。
11	ベクター乳剤 〔HMB-0901〕 -H23,H27	7エンピ 477A 9% メイトロ 27%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	・移植活着後 (雑草発生前期) 500~700ml (収穫60日前まで) ・第2本葉展開後 (雑草発生前期) 400~600ml (収穫60日前まで)	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	3	1. 生育の進んだ雑草には効果が劣る場合がある。 2. 水量は、10a当たり50~100Lとする。 3. 非イオン系除草剤を加用する。 4. 散布直後に降雨が予想される場合には使用を避ける。 5. (直播栽培)一過性の葉の黄化が見られることがある。
12	ホネチ乳剤 〔NP-61〕 -H10,H15,H23	7アラキジウム 10%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	・一年生イネ科雑草(3~5葉期)及び多年生イネ科雑草 75~100ml (収穫30日前まで) ・一年生イネ科雑草(3~8葉期) 75~100ml (収穫30日前まで)	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 運動的であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに7~10日(スズメノカタビラは2~3週間)を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. スズメノカタビラには効果が不十分な場合がある。 3. 広葉雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。
13	ホネチ乳剤 〔NC-360〕 -H9,H11	キサロホップエチル 7%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	・一年生イネ科雑草の3~6葉期 200~250ml ・一年生イネ科雑草の7~8葉期 200~300ml ・多年生イネ科雑草の3~6葉期 250~300ml (収穫30日前まで)	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	2	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカヤツリグサ科の雑草には効果が無いので、これらの雑草が混在する場合は有効な除草剤との体系で使用する。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。
14	ラッキー乳剤 〔アラロール〕 -S57,H24,H25	アラロール 43%	雑草茎葉 散布 全面散布	移植後(雑草発生前) 300~400ml(水量100L) (収穫60日前まで) 中耕培土後(雑草発生前) 300~400ml(水量100L) (収穫60日前まで) 中耕培土後 (イネ科雑草発生前期) 300~400ml(水量100L) (収穫60日前まで)	●	●	○	○	○	○	○	○	○	○	3	

(5) てんざい

(5) てんざい

薬 劑 番 号	商 品 名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名及び 含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量		対象雑草	効果の程度						本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂
			移植栽培	直播栽培		シロザ	タネ類	ハコベ	シユクサ	一年生イネ科	多年生イネ科		
15	レナスター水和剤 〔HOK-1911〕 -R4,R5 * フォルトスターP Duo 水和剤	シナミトP 15.4% レナシル 19.2%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	・てんざい移植後・雑草発生 前～始期 300～500g (水量80～100L) (収穫60日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	2	1. 非イオン系除草剤を添加する。 2. シロザに対して効果が発現する場合は使用を避ける。 3. 砂地で水はけのよい畑では使用を避ける。 4. 高温時の散布は葉害を生じることがあるので注意すること。
16	レナスター水和剤 〔MBH-2003〕 -R5,R6	メタロド 35% レナシル 40%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	・てんざい移植後・雑草発生 始期 200～300g(水量100L) (収穫60日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	2	1. 非イオン系除草剤を添加する。 2. イネ科に対して効果が発現する。 3. タネ類に対して効果が発現する。 4. 生育の進んだ雑草に対して効果が多発する場合は、(直播栽培)
17	レナスター水和剤 〔レナシル・PAC〕 -S48,H16	レナシル 40% PAC 30%	雑草茎葉 散布又は 全面土壌 散布	・てんざい中耕後・雑草発生始期 150～300g(水量100L) (収穫60日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	2	1. 砂土系で透水性のよい畑では、葉害を生じることがあるので使用を避ける。 2. 生育の進んだ雑草には、効果が劣るので雑草発生始期に散布する。 3. 非イオン系除草剤を150～200ml追加する。 4. 雑草及び土壌全面に散布する。 5. 葉液は十分攪拌し、ときどき攪拌しながら散布する。 6. 少量散布の場合には、専用ノズルを使用する。 7. 少量散布の場合、ヒエに対しては効果が劣るので、中耕後に2回 目処理を行うのが望ましい。
18	ワンサイトP乳剤 〔SL-236L〕 -S62,H19,H25	フルアックP 17.5%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	・イネ科雑草の3～8葉期 75～100ml (水量70～100ml/10a) (収穫90日前まで)	●	○						1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびカヤリグサ科雑草とスズメノカタビラが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 選別性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるため、誤ってまき直しなどに注意する。

(6) そ ば

(6) そ ば

薬 劑 番 号	商 品 名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名及び 含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量	対象雑草		効果の程度						本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
				一 年 生 雑 草	イ ネ 科 雑 草	一 年 生 雑 草	一 年 生 イ ネ 科	多 年 生 雑 草	シ ロ サ	タ デ 類	ハ コ ベ			
1	サク液剤 [AH-01] -H21	グリホサートナトリウム塩 11.8%	茎葉処理 耕起前またはは種前、雑草生育期 (草丈30cm以下) 300～500ml(水量:100L)	●								3	1. 散布直後の降雨は、効果を減ずる。 2. 作物に薬剤が付着すると薬害を生ずる 3. 雑草の草丈30cm以下で処理する。	
2	タチタケQ [ZK-122] -H19	グリホサートナトリウム塩 44.7%	茎葉処理 耕起前・雑草生育期 250～500ml(水量:25～100L)	●								2	1. 多年生イネ科雑草が15cm以上に再生してから散布する。 2. 本剤は展着剤を加用しない。 3. 散布後一定時間降雨のない日に散布する(1～3時間)。 4. 周辺の作物に薬液がかからないよう注意することにも、ドリフト低減ノズル(ラウンドノズル等)の使用が望ましい。 5. スキヤは除く (少水量散布) 1. 専用ノズルを使用する。	
3	ラクトアックマックスロート [NC-622] -H21	グリホサートナトリウム塩 48%	茎葉処理 耕起前またはは種前 (雑草生育期、雑草草丈30cm以下) 200～500ml(水量:50～100L 少水量:25 ～50L)	●								2		
4	ナブ乳剤 [NP-55] -H11,H26,R3	セトキジム 20%	雑草茎葉 散布又は 全面散布 イネ科3～5葉期 150～200ml (収穫30日前まで) イネ科6～8葉期 200ml (収穫30日前まで) イネ科3～8葉期 200ml(水量25～50L) (収穫30日前まで)	●								1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7～10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 (少水量散布) 1. 専用ノズルを使用する。	
5	ホルトワフル [NC-360] -H26	キザロホワフル 7.0%	雑草茎葉 散布又は 全面散布 そば生育期 一年生イネ科雑草3～6葉期 200～300ml(水量25～100L) (収穫14日前まで)	●								1	1. イネ科雑草が完全に枯死するまで5～10日を要する。 2. スズメノカタビラに効果が劣る。 (少水量散布) 1. 専用ノズルを使用する。	新

3-2 畑作物【マイナー作物】

【マイナー作物】

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量	対象雑草		効果の程度					毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規 ・改訂
				一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類	ハコベ				

(7) はつか

1	177 乳剤 〔CG-65〕 -H29	セキソジム 20.0%	雑草莖葉 散布又は 全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 150~200ml(収穫14日前まで)	●							○	2	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	
2	107 液剤 〔リニエロ〕 -S44	リニエロ 50%	全面土壌 散布	萌芽期~揃い(収穫120日前まで) 100g	●								1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は葉書の恐れがあるのを避ける。 2. 春の追肥、ハローかけの直後に低圧噴霧器でほ場全面に散布する。 3. 萌芽前の処理は効果が劣る。 4. 処理適期を過ぎると葉害を生じることがあるので、適期散布に努める。	

(8) ベにばないんげん

1	177 乳剤 〔CG-119α〕 -H25	s-メトラゾール 83.7%	全面土壌 散布	は種後出芽前 (雑草発生前) 70~130ml	●								1	1. 砂土系では使用しない。 2. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉書の恐れがあるので使用を避ける。 3. シロザ、イヌタバチに対して低薬量で効果が劣る場合がある。	
2	177 乳剤 〔NP-65〕 -H19	セキソジム 20%	雑草莖葉 散布又は 全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 150~200ml(収穫60日前まで)	●								1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	
3	177 液剤 (ナトリウム塩) 〔BAS-3510(Na)〕 -H19	ベンゾジン 40%	畝間雑草 茎葉散布	生育期(初生葉展開~本葉抽出始期) 100~200ml(収穫45日前まで)									1	1. 散布時の飛散により作物の葉縁の一部に褐変が発生する場合がある。 2. 作物にかからないように散布する。 3. いんげんまめ、せりに使用する場合は葉枯・褐変症状の葉害を生じやすく、蒸散の盛んな高温乾燥条件下では葉害により減収することがあるので、雑草害が予想される場合に限り使用する。	
4	777 液剤WDG 〔S-482〕 -H25	フルミキサン 50%	全面土壌 散布	播種後出芽前(雑草発生前) 5~10g									1	1. 処理時期が出芽期に近いと生育抑制を生じる場合があるので、処理が遅れないようにする。 2. 本剤は使用後著しい降雨があると、初生葉に萎縮を生じおそれがある。 3. 本剤散布に用いた器具類は、タンクホース内に薬剤が残らないよう、使用後できるだけ早く、専用の洗剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合は、葉害の原因にならないよう注意する。	
5	107 液剤 〔リニエロ〕 -H19	リニエロ 50%	全面土壌 散布	播種後出芽前(雑草発生前) 75~100g	●								1	1. 砂土系で透水性のよいほ場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉書の恐れがあるので使用を避ける。	

3-2 畑作物【マイナー作物】

【マイナー作物】

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量	対象雑草						効果の程度						毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
				一年生雑草	一年生イネ科雑草	一年生雑草	一年生イネ科雑草	一年生雑草	一年生イネ科雑草	シロザ	タデ類	ハコベ	シロサ	一年生イネ科	カス				

(9) おうぎ

1	1セル乳剤 [ALH-083]乳剤 -R3	フルトラム 24.0%	雑草莖葉 散布又は 全面散布 雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 50~75ml ただし、収穫30日前まで	●											4 2回(1年 内)間に		1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	新
2	7ア乳剤 [NP-55] -H31	セキソラム 20%	雑草莖葉 散布又は 全面散布 雑草生育期(イネ科雑草3~6葉期) 150~200ml	●											1		1. 黄化および白化の葉害が生じることがある。	
3	ハサクラ液剤 [BAS-3510(Na)] -R3	ベンザリオンナトリウム塩 40%	雑草莖葉 散布又は 全面散布 おうぎ生育期 ただし、収穫30日前まで 広葉雑草3~4葉期 200ml 水量100L	●											2			
4	ハウメイザ一液剤 [AC-263液剤] -H29	イマサモックスアモニウム塩 0.85%	雑草莖葉 散布又は 全面散布 出芽前期(雑草発生始期~前期) 200~300ml 水量100L	●											1		1. 雑草の発生始期から幼少期にかけて高い効果を示すので、使用時期を逸しないように散布する。 2. 有機リン系殺虫剤又はイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、葉害の恐れがあるのを避ける。 3. 周辺の作物に液剤がかからないよう十分注意する。	
5	ロウカス [U-エロウ] -H19	リニエロン 50%	全面土壌 散布 播種後出芽前(雑草発生前) 100~150g	●											1		1. 作物に飛散すると葉害を生じるおそれがある。 2. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に積度良く散布する。 3. 雑草の発生始期から幼少期にかけて高い効果を示すので、使用時期を逸しないように散布する。 4. 有機リン系殺虫剤又はイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、葉害の恐れがあるのを避ける。	

(10) せんきゅう

1	ローコーリン乳剤 [ANK-563] -H25	ベンチイタリン 30.0%	全面土壌 散布 萌芽後(雑草発生前) 300ml(収穫120日前まで)	●											1		1. 発生後の雑草には、効果が低下するので使用時期を失しないようにする。 2. ソユクサ、キク科雑草に効果がある。 3. 後作物としてかぼちや等のうり科やほうれんそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるのを避ける。	
2	ハーフラックWDG [NBA-961] -R2	メタシロ 70%	雑草莖葉 散布又は 全面散布 せんきゅう生育期(雑草発生前期)(但し、収穫30日前まで) 600g 水量100L	●											2		1. 生育の進んだ雑草には効果が劣る場合がある 2. 非イオン系除草剤を加用する 3. 処理直後の降雨で効果が劣るので、散布直後に降雨が予想される場合は、使用を避ける。	
3	ワンサイトP乳剤 [SL236(L)] -H19	フルアジンホフP 17.5%	雑草莖葉 散布又は 全面散布 雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) (スズメノカタビラを除く) 50~100ml(収穫90日前まで)	●											1		1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびヤブツリガサ科雑草とスズメノカタビラが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用。 3. 遅効性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるため、誤ってまき直しなどしないように注意する。	

3-2 畑作物【マイナー作物】

【マイナー作物】

薬剂番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量	対象雑草						効果の程度	毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
				一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草					
1	1 コーサン乳剤 〔ANK-563〕 -H20	ベンゼイタリン 30.0%	全面土壌 散布 とりかぶと生育期(雑草発生前) 300~500ml(収穫90日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	1	1. 発生後の雑草には、効果が低下するので使用時期を失しないようにする。 2. ソユウカサ・キク科雑草に効果が劣る。 3. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やほうれん草、そぼを作物けると生育を抑制することがあるのを避ける。		
2	2 ハタハーブフロアブル 〔HMB-0901F〕 -R2	フェンタリン 9% メタシロン 27%	雑草莖葉 散布又は 全面散布 とりかぶと生育期(雑草発生前) 700ml(収穫30日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	2	1. 生育の進んだ雑草には効果が劣る場合がある。 2. 非イオン系農薬剤を加用する。 3. 散布直後に降雨が予想される場合には使用をさける。		
3	3 フア乳剤 〔NP-65〕 -H19	セキンジム 20.0%	雑草莖葉 散布又は 全面散布 雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 150~200ml(収穫14日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	2	1. スズメカカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。		

(11) とりかぶと

1	1 アクロマックス水和剤 〔アロサミド〕 -H23	アロサミド 50.0%	全面土壌 散布 定植後または中耕後(雑草発生前) 300g(収穫60日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	2	1. 本剤はキク科、カヤツリグサ科には効果が劣るので、キク科、カヤツリグサ科雑草優占の場合には使用を避けること。 2. 本剤は雑草の発生後では効果が劣るので、散布は必ず雑草の発生前に土壌全面に均一に行うこと。 3. 砂土、整地、覆土は丁寧にすること。 4. 地端な乾燥土壌または過湿土壌での使用を避けること。散布後に降雨が予想される時は使用を避けること。 5. 散布は噴霧状にならないよう注意すること。特に定植後処理では吐出圧を下げて土壌全面に均一に行い、重層散布を避けること。 6. 砂土や礫を含む土壌での使用は避けること。 7. 移植をする作物では根が露出するような露補えを避け、丁寧に移植を行うこと。	
---	---------------------------------	-------------	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--

(12) チコリ(根株)

1	1 キルハール 〔MCN-8501〕 -R4	カーハムナトリウム塩 33.0%	土壌散布 混和・被 覆 定植15日前まで 60L(原液)	●	○	○	○	○	○	○	1	1. 低温期の葉書の発生を防ぐため、薬剤の使用上の注意を遵守する。	
2	2 コーサン乳剤 〔ANK-563〕 -H23	ベンゼイタリン 30.0%	全面土壌 散布 苗圃：は種後出芽前、雑草発生前 本圃：植付後萌芽前、雑草発生前 本圃：おけら生育期、雑草発生前 200~300ml(収穫60日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	1~3 回(1 年 内) に	1. 排水不良のほ場や多量の降雨が予想される時は使用を避ける。 2. 発生後の雑草には効果が低下するので、使用時期を失しないようにする。 3. スズメカカタビラに対しては低葉量では除草効果が劣る場合がある。 4. ソユウカサ、キク科雑草に効果が劣る。 5. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やほうれん草、そぼを作物けると生育が抑制することがあるのを避ける。	
3	3 フア乳剤 〔NP-65〕 -H28	セキンジム 20.0%	雑草莖葉 散布又は 全面散布 雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 150~200ml(収穫30日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	2	1. スズメカカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	
4	4 ハーブマックスWDG	メタシロン 70.0%	雑草莖葉 散布又は 全面散布 おけら生育期(雑草発生前) 600g(収穫30日前まで) 水量100L	●	○	○	○	○	○	○	2	1. 葉緑部に枯れが発生することがある。 2. 前処理剤との組み合わせて使用する。 3. 非イオン系農薬剤を加用する。	

(13) おけら

1	1 キルハール 〔MCN-8501〕 -R4	カーハムナトリウム塩 33.0%	土壌散布 混和・被 覆 定植15日前まで 60L(原液)	●	○	○	○	○	○	○	1	1. 低温期の葉書の発生を防ぐため、薬剤の使用上の注意を遵守する。	
2	2 コーサン乳剤 〔ANK-563〕 -H23	ベンゼイタリン 30.0%	全面土壌 散布 苗圃：は種後出芽前、雑草発生前 本圃：植付後萌芽前、雑草発生前 本圃：おけら生育期、雑草発生前 200~300ml(収穫60日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	1~3 回(1 年 内) に	1. 排水不良のほ場や多量の降雨が予想される時は使用を避ける。 2. 発生後の雑草には効果が低下するので、使用時期を失しないようにする。 3. スズメカカタビラに対しては低葉量では除草効果が劣る場合がある。 4. ソユウカサ、キク科雑草に効果が劣る。 5. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やほうれん草、そぼを作物けると生育が抑制することがあるのを避ける。	
3	3 フア乳剤 〔NP-65〕 -H28	セキンジム 20.0%	雑草莖葉 散布又は 全面散布 雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 150~200ml(収穫30日前まで)	●	○	○	○	○	○	○	2	1. スズメカカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	
4	4 ハーブマックスWDG	メタシロン 70.0%	雑草莖葉 散布又は 全面散布 おけら生育期(雑草発生前) 600g(収穫30日前まで) 水量100L	●	○	○	○	○	○	○	2	1. 葉緑部に枯れが発生することがある。 2. 前処理剤との組み合わせて使用する。 3. 非イオン系農薬剤を加用する。	

3-2 畑作物【マイナー作物】

【マイナー作物】

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量	対象雑草						効果の程度						毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
				一年生雑草	一年生科雑草	一年生葉雑草	一年生雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類	ハコベ	シロサ	シロサ	シロサ	シロサ				

(14) どうすけぼうふう

1	ゴ-ゴ-サン乳剤 [ANK-553] -H25	ベンデイタリン 30.0%	全面土壌 散布 播種後発芽前(雑草発生前) 300ml	●												1	1. 発生後の雑草には、効果が低下するので使用時期を失しないようにする。 2. ソユウサ、キク科雑草に効果が劣る。 3. 後作物としてかぼちゃや等のうり科やほうれんそう、そぼを作付けると生育が抑制することがあるため避ける。	
---	-------------------------------	---------------	--------------------------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	--

(15) どうき

1	キルバー [MCN-8501] -R4	カーハムトリウム塩 33.0%	土壌散布 混和・被 覆	●												1	1. 低温期の雑草の発生を防ぐため、薬剤の使用上の注意を遵守する。	
2	ゴ-ゴ-サン乳剤 [ANK-553] -H26	ベンデイタリン 30.0%	全面土壌 散布	●												1	1. 発生後の雑草には、効果が低下するので使用時期を失しないようにする。 2. ソユウサ、キク科雑草に効果が劣る。 3. 後作物としてかぼちゃや等のうり科やほうれんそう、そぼを作付けると生育が抑制することがあるため避ける。	
3	セルカ乳剤 [ALH-083] 乳剤 -R5	グリゾム 24.0%	雑草茎葉 散布又は 全面散布	●												2 6 回(1 年内 1回)	1. スズメカビやアブラムシ多発圃場では高濃度で使用する。	新
4	ハーブアップWDG [NBA-96] -R3	メストロン 70.0%	雑草茎葉 散布又は 全面散布													2	1. 葉が老化する雑草が生じることがある。 2. 前処理剤との組み合わせで使用する。 3. 非イオン系界面活性剤を加用する。	
5	ハタチ乳剤 [フェンタイン] -H30	フェンタイン 14.7%	雑草茎葉 散布又は 全面散布													2	1. 雑草が大きくなると根元に効果が劣る。 2. 葉量調整後の時間が経過すると結晶が生じ、散布機のノズルをつまらせるので、薬剤調整後は速やかに散布する。 3. 雑草発生始期では効果が劣る。	

(16) かのこそう

1	イサケ液剤 [AH-01] -H30	グルホシネートPトリウム塩 11.5%	雑草茎葉 散布	●												2	1. 畦間散布は作物にかからないことを前提とした処理方法である。 2. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に薬害を生じるので、周辺の作物に薬剤がかからないように十分注意する。 3. 雑草が大きくなりすぎると効果が劣るので散布時期を失しないよう、雑草に薬液が十分付着するように散布する。	
2	セルカ乳剤 [ALH-083] 乳剤 -H27	グリゾム 24%	雑草茎葉 散布又は 全面散布													1	1. 雑草の発現には2~3週間程度を要する。 2. 低温時には効果が劣る場合がある。	
3	トリアリン乳剤 [TRIFLORIN] -H26	トリフルリン 44.5%	全面土壌 散布	●												1	1. 砂土及び高温の透水性不良ほ場での使用は避ける。 2. ソユウサ科、カヤノリグサ科、キク科、アブラナ科を除く	

3-2 畑作物【マイナー作物】

【マイナー作物】

薬剤番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量	対象雑草						効果の程度	毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
				一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草					

(17) なたね

1	ハスガ液剤 [Hoe-866液剤] H-27	ケルボネート 18.5%	雑草莖葉 散布 なたね生育期 雑草生育期(種前又は畦間処理) 300~500ml(収穫30日前まで)	●						○		1	1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布することが必要である。 2. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に薬害を生じる。	
---	------------------------------	--------------	--	---	--	--	--	--	--	---	--	---	---	--

(18) 食用亜麻

1	ドバ [DCMU水和剤] H-28	DCMU 80%	雑草莖葉 散布 食用亜麻生育期(5~10cm(6葉展開期以降)) 雑草発生初期 60g(収穫60日前まで) 水量100L	●						○		2	1. 生育が進んだ雑草には効果が劣る。 2. 中耕除草との組合せで使用する。 3. 展着剤は加用しない。	
---	-------------------------	----------	---	---	--	--	--	--	--	---	--	---	--	--

(19) 甘藷

1	コーゴ-サン乳剤 [ANK-553(改)] H-27	ハソテイタリン 30.0%	全面土壌 散布 播種後出芽前(雑草発生前) 300ml(水量100L) 定植後(雑草発生前) 300ml(水量100L) (ただし収穫90日前まで) 越冬後萌芽前(雑草発生前) 300ml(水量100L)	●	キ科 、ツ 、ユ 、サ を除く							(年 1 3 回)	1. 雑草の生育が進むと効果は低下するので、雑草の発生前に散布する。 2. ツククサ、キ科雑草に効果が劣る。 3. 後作物としてかぼちゃやほうろくそう及びそばを作付けると生育を抑制することがあるので避ける。 4. 播種後出芽前処理では生育抑制を生じる場合がある。	改	
2	ゼラ外乳剤 [ALH-0831乳剤] H-31	フルゾム 24.0%	全面土壌 散布又は 全面散布 雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 75ml(水量100L) (収穫14日前まで)	●									(年 3 9 回)	1. やや遅効性であり、効果の発現には1週間程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 低温時には効果が劣る場合がある。	
3	トリアゾラピト乳剤 [トリフルリン乳剤] H-31	トリフルリン 44.5%	全面土壌 散布 甘藷定植後~萌芽前期 雑草発生前 300ml(収穫60日前まで) 水量100L	●									(年 1 3 回)	1. 砂土及び加湿の透水不良ほ場での使用は避ける。 2. 対象雑草はツククサ科、カヤツリグサ科、キ科、アブラナ科、ナス科を除く。	
4	ハワーグイテ-液剤 [AC-263液剤] H-29	イマザモックスアノモニウム塩 0.85%	雑草莖葉 散布又は 全面土壌 散布 萌芽前(雑草発生前~始期) 300ml 萌芽前~萌芽前期(雑草発生始期~発 生前期) 300ml 生育期(雑草発生前期~2葉期) 300ml(収穫60日前まで)	●									1 (年 間)	1. 有機リン系殺虫剤又はイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、薬害の恐れがあるので避ける。 2. 周辺の作物に液剤がかからないよう十分注意する。 3. 雑草の発生始期から幼少期にかけて高い効果を発揮するので、使用時期を遅しないように散布する。 4. 有機リン系殺虫剤又はイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、薬害の恐れがあるので避ける。 5. 萌芽前処理との2回処理を行う。	

3-2畑作物【マイナー作物】

【マイナー作物】

薬剂番号	商品名 〔試験番号〕 指導参考年次	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期、10a当たり使用量	対象雑草						効果の程度						毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規 ・改訂
				一年生雑草	イネ科一年生雑草	一年生雑草	一年生雑草	多年生雑草	シロザ	タデ類	ハコベ	シロクサ	一年生イネ科	カヌタ	タビラ				

(20)おうごん

1177乳剤 〔NP-55〕 -H29	トリフルリン 44.5%	全面土壌 散布	定植後雑草発生前 200~300ml(収穫90日前まで)	●											1	1. 砂土及び過湿の透水不良ほ場での使用は避ける。 2. イネ科雑草に対して効果が高く、広葉雑草が多いほ場では高薬量で使用する。 3. 軽微な生育抑制を生じることがある。 4. シロクサ科、カヤツリクサ科、キク科、アブラナ科を除く。	
---------------------------	--------------	------------	---------------------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	--

(21)しやくやく(薬用)

1177乳剤 〔NP-55〕 -H29	セキジム 20.0%	雑草莖葉 散布又は 全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~6葉期) 150~200ml(収穫60日前まで)	●											(年 1 2 0 回)	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	
---------------------------	------------	----------------------	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------------------------	--	--

(22)だいおう

1177乳剤 〔ALH-083〕乳剤 -H31	グレートム 24.0%	雑草莖葉 散布又は 全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~5葉期) 75ml(収穫14日前まで)	●											(年 1 3 5 回)	1. やや遅効性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1~2週間程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. 低温時には効果が劣る場合がある。	改
-------------------------------	-------------	----------------------	-------------------------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	-------------------------	---	---

(23)キノア

1177乳剤 〔NP-55〕 -R2	セキジム 20%	雑草莖葉 散布又は 全面散布	雑草生育期(イネ科雑草3~6葉期) 150~200ml (収穫14日前まで)	●											2	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	新
--------------------------	----------	----------------------	--	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	---

3-3 野菜

●=対象雑草、- =対象外、○=効果が高い、△=劣る、空欄=草種別評価なし

3-3 野菜

番号	商品名 〔試験番号〕 (指導致参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草										毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
					一年生雑草	イネ科雑草	一年生雑草	多年生雑草	カスミソウ科	アブラナ科	アカザ科	タデ科	キク科	ハコベ				

(1)だいこん

1	カブタケ乳剤 [ZK-122液] -H20	カブサートトリウム塩 44.7%	雑草茎葉散布 耕起または播種7日以前、雑草 生育期(草丈30cm以下)	250~500ml (水量25~50L)	●												1. 薬剤が雑草丈30cm以下の莖葉全体に均一にかかるように散布すること。 2. 播種予定の7日以前に処理するように留意すること。 3. 少量散布の場合には、専用ノズルを使用すること。	
2	トリアルリン乳剤 [D1777/サイト乳剤] -S57	トリアルリン 44.5%	全面土壌散布 は種直後 雑草発生前	150~200ml	●				△	△	○						1. 特にイネ科雑草に効果が無い。ツユクサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 2. 散布後、土と混和すると薬害を生じやすいので混和しない。 3. 後作としてイネ科作物やほうろくなどの作付予定地では、残効期間を考慮して作付けする。 4. だいこんに使用する場合には、薬害を避けるために、薬量を厳守し、砂土では低薬量で使用する。	
3	ワブ乳剤 [NP-55乳] -S61	セトキシム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫14日前まで	150~200ml	●												1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	
4	ホルプロフル [NC-360] -H24	キサロプロエチル 7%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の6~8葉期 収穫14日前まで	200ml	●												1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカヤツリグサ科の雑草には効果が無いので、これらの雑草が混発する場合は有効な除草剤との体系で使用すること。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意すること。 4. 少量散布の場合には、専用ノズルを使用すること。	
5	ワブサイトP乳剤 [SL-236(L)乳] -H16	フルアジホップ 17.5%	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期 イネ科雑草3~5葉期 収穫45日前まで	50~100ml	●												1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草とスズメノカタビラが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用すること。 3. 遅効性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるため、誤ってまき直しなどしないように注意すること。 4. だいこんに使用した場合、間引き菜またはつまみ菜として食用に供さない。	

(2)にんじん

1	カブタケ乳剤 [PL-10乳] -H6	ベンチメタリン 15% リニエロン 10%	全面土壌散布 は種直後 雑草発生前	300~500ml	●												1. 土壌が乾燥しているときは効果が劣る。 2. はげしい降雨が予想される場合には、使用を避ける。	
2	カブタケ細粒剤F [PL-10細粒] -H10	ベンチメタリン 1.5% リニエロン 1.0%	全面土壌散布 は種直後 雑草発生前	3~5kg	●												1. ツユクサに効果が劣る。 2. 土壌が乾燥している場合には効果が劣るので、降雨後土壌が適湿の時に散布する。 3. はげしい降雨の予想される場合には、使用を避ける。 4. 適用土壌は砂壤土~壤土である。	
3	カブタケ乳剤 [KH-901乳] -H11	ベンチメタリン 50% ベンチメタリン 5% リニエロン 7.5%	全面土壌散布 は種直後 雑草発生前	500~700ml	●												1. 低薬量でツユクサに効果が劣る。 2. 土壌が乾燥している場合には効果が劣るので、降雨後土壌が適湿の時に散布する。 3. 発生の雑草には効果が劣るので、使用時期を失しないようにする。 4. ベンチメタリン、ベンチメタリン又はリニエロンを含む農薬の総使用回数は1回まで。	
4	カブタケ乳剤 [S-28乳] -H5	フタホス 50%	全面土壌散布 は種後出芽前 雑草発生前	300~400ml	●												1. 砂土では薬害を生じやすいので、少なめの薬量で使用すること。 2. ノボロギク、ツユクサに効果が劣る。 3. 適用土壌は砂壤土~壤土である。	

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草 一年生雑草 イネ科雑草 一年生雑草 多年生雑草	効果の程度							毒 性	本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂	
						ア カ ザ 科	ア ブ ラ ナ 科	カ ス メ ノ コ	タ タ コ	ア カ ザ 科	タ タ コ	キ ク 科				ハ コ ベ
5	加口IPC 〔IPC乳〕 -H14	IPC 45.8%	全面土壌散布 は種直後 雑草発生前	300ml	●	△	△	○	○	△	○	○	○	1	1. アカザ科、キク科雑草には効果が劣るが、特にハコベ、タデ類、スベリヒユに効果が高い。 2. 整地していないに行い、覆土を完全にす。 3. 砂質土壌では、使用を避ける。 4. 高温時には効果が劣るので使用を避ける。	
6	ゴースン細粒剤F 〔ANK-553細粒〕 -S63	ペンチメタリン 2%	全面土壌散布 は種後出芽前 雑草発生前	4~5kg	●					△				1	1. 発生後の雑草には効果が低下するので、使用時期を失しないようにする。 2. 土壌が乾燥している時は効果が劣るので、適度の水分の時に散布する。 3. ほげしい降雨が予想される場合には使用を避ける。 4. 後作物としてかぼちゃや等のうり科やほうれんそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。 5. 適用土壌は砂壤土~埴土である。	
7	ゴースン乳剤 〔ANK-553乳〕 -S60	ペンチメタリン 30%	全面土壌散布 は種後出芽前 雑草発生前	200~300ml	●					△				1	1. 発生後の雑草には効果が低下するので、使用時期を失しないようにする。 2. 土壌が乾燥している時は効果が劣るので、適度の水分の時に散布する。 3. ほげしい降雨が予想される場合には使用を避ける。 4. 後作物としてかぼちゃや等のうり科やほうれんそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。 5. 適用土壌は砂壤土~埴土である。	
8	ゴースルS水和剤 〔NK-1101水和〕 -H27	S-トラフロール 24.8% フロトリン 26.6%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前)	150g	●									1	1. 薬重のおそれがあるの、トンネル栽培では使用を避ける。 2. 葉害を生ずるおそれがあるので、砕土、整地および覆土はしていないで行う。 3. 砂土では使用しない。	
9	セノ乳剤 〔S-604乳〕 -H11	ケルゾム 24%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫40日前まで	50~75ml	●									1	1. やや運動性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1~2週間程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 低温時には、効果が劣る場合がある。	
10	トリアゾラクト乳剤 〔トリアゾラクト〕 -S47	トリアゾラクト 2.5%	全面土壌散布 は種直後 雑草発生前	4kg	●					△				1	1. 特にイネ科雑草に効果が高い。ツクサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 2. 適応作型は露地栽培とする。 3. トンネルやハウス栽培ではトリアゾラクトが酸化して薬害の恐れがある。	
11	トリアゾラクト乳剤 〔トリアゾラクト〕 -S61	トリアゾラクト 44.5%	全面土壌散布 は種直後 雑草発生前	200~300ml	●					△				1	1. 特にイネ科雑草に効果が高い。ツクサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 2. 適応作型は露地栽培とする。 3. トンネルやハウス栽培ではトリアゾラクトが酸化して薬害の恐れがある。	
12	ワザ乳剤 〔NP-55乳〕 -S62、H26	セキンジム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫14日前まで	150~200ml	●									1	1. スズメカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は運動性で完全枯死までに7~10日程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	
13	ホースト乳剤 〔NP-61乳〕 -H13	テラロキジム 10%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫30日前まで	75~100ml	●									1	1. 運動的であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに7~10日(スズメカタビラには2~3週間)を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. 広葉雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. アブラナ科野菜の一部に薬害を生じる場合があるので、飛散には十分注意する。	
14	ホルトワザ乳剤 〔NC-360〕 -H12	キサロキジムエチル 7%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~8葉期 収穫45日前まで	200~300ml	●									1	1. スズメカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカヤツリグサ科の雑草には効果がなく、これらの雑草が混在する場合は有効な除草剤との体系で使用する。 3. イネ科雑草が完全に枯死するに約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草										毒 性	本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂	
					一 年 生 雑 草	イ ネ 科 雑 草	一 年 生 雑 草	多 年 生 雑 草	カ タ シ ビ ロ	ア ス メ ノ	ア ブ ラ ナ 科	ア カ ザ 科	タ デ 科	キ ク 科				ハ コ ベ
15	ロウカ [リニエロ水和]	リニエロ 50%	全面土壌散布 は種直後 にんじんの3~5葉期 雑草発生前 (収穫30日前まで)	100~150g	●												1. 整地は丁寧に、雑草を均一にする。 2. 砂質土で透水性のよい畑では薬害を生じることがあるので、散布を避ける。 3. にんじんの出芽後から3葉期未満までの散布は薬害の恐れがある。感受性の高い品種もあるので、は種直後に使用する。 4. 高温期には使用を避ける。	
16	ワカサゲ [SL-122顆粒水和] -H24 -H29	フルジホフP 7% リニエロ 30%	雑草茎葉土壌散布 にんじんの3~5葉期 雑草生育期 収穫30日前まで 全面土壌散布 は種後出芽前 雑草発生前	200~250g	●												1. 砂質土で透水性のよい畑では薬害を生じることがあるので散布を避ける。 2. 高温時は薬害を生じおそれがあるので使用しない。 3. 品種により薬害を生じる場合があるので、事前に使用品種における薬害の有無を確認する。	
17	ワサゲP乳剤 [SL-236(L乳)] -H16	フルジホフP 17.5%	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期 イネ科雑草3~5葉期 (収穫30日前まで)	50~100ml	●												1. スズメカカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびカタビラ科雑草とスズメカカタビラが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 運動性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	

(3)ながいも

1	カイタツ乳剤 [PL-10乳] -H9	ペンテイタリン 15% リニエロ 10%	全面土壌散布 植付後萌芽前 雑草発生前	400~600ml	●												1. ツユクサには効果が劣る。 2. 土壌が乾燥している場合には効果が劣るので、降雨後土壌が適湿の時に散布する。 3. はげしい降雨の予想されるときには使用を避ける。	
2	カイタツ細粒剤F [PL-10細粒]	ペンテイタリン 1.5% リニエロ 1.0%	全面土壌散布 植付後萌芽前 雑草発生前	4~6kg	●												1. ツユクサに効果が劣る。 2. 土壌が乾燥している場合には効果が劣るので、降雨後土壌が適湿の時に散布する。 3. はげしい降雨の予想されるときには使用を避ける。	
3	カマート乳剤 [S-28乳]	ブタホス 50%	全面土壌散布 植付後萌芽前 雑草発生前	200~400ml	●												1. キク科雑草、ツユクサには効果が劣る。 2. 土壌が乾燥している場合には効果が劣るので、降雨後土壌適湿のときに散布する。 3. 発生の雑草には効果が低下するので、使用時期を失しないようにする。 4. 適用土壌は砂壤土~埴土である。	
4	コーゴサン乳剤 [ANK-553乳] -H2	ペンテイタリン 30%	全面土壌散布 植付後~萌芽前 雑草発生前	300~400ml	●												1. キク科雑草、ツユクサには効果が劣る。 2. 発生の雑草には効果が劣るので、使用時期を失しないようにする。 3. 土壌が極端に乾燥している時は効果が劣るので、降雨後に散布する。 4. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やはづれんそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。	
5	ゴケールS水和剤 [NK-1101水和] -H27 -H30	S-トリアロピル 24.8% プロトリン 26.6%	全面土壌散布 植付後萌芽前 (雑草発生前) 畦間土壌処理 萌芽後ただし、植付45日後まで (イネ科雑草2葉期まで)	225~300g 225~300g	●												1. 薬害を生ずるおそれがあるので、砕土、整地および覆土はていねいに行う。 2. 砂土では使用しない。	

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草										毒性	本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂
					一 年 生 雑 草	イ ネ 科 雑 草	一 年 生 雑 草	多 年 生 雑 草	カ ス メ ノ ビ ラ	ア ス メ ノ ビ ラ	ア カ ザ 科	タ テ 科	キ ク 科	ハ コ ベ			
6	ザクザク液剤 [AH-01液] -H21	グルホシネートPナトリウム 塩 11.5%	茎葉散布 畦間散布 雑草生育期 (収穫30日前まで) 全面雑草散布(草丈30cm以下) 植付後萌芽前	300~500ml	●											1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布する。 2. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に薬害を生じる。	
	-H24		全面雑草散布(草丈30cm以下) 植付後萌芽前	300~500ml	●												
	-H24		畦間茎葉散布 生育期 雑草生育期(草丈30cm以下)	300~500ml	●											1. 作物に飛散しないように散布する。	
7	ダクソソル [HCW-201] -H22,H24	DCMU 50%	全面茎葉兼土壌散布 植付後萌芽前 雑草発生前~雑草発生始期(イ ネ科雑草3葉期以内)	100~200ml	●											1. 効果の発現に1~2週間程度要する。 2. 本剤の使用回数は植付後萌芽前、または生育期のいずれか1回とする。	
	-H24		生育期 雑草生育期 畦間茎葉散布 茎葉兼土壌散布 ただし、収穫60日前まで		●											1. 効果の発現に1~2週間程度要する。 2. 本剤の使用回数は植付後萌芽前、または生育期のいずれか1回とする。 3. 生育期に散布する場合は茎葉にかからないように畦間に散布する。	
8	トリアアサト粒剤2.5 -S61	トリフルリン 2.5%	全面土壌散布 植付直後全面または生育初期畦 間(植付30日後まで) 雑草発生前	4~6kg	●											1. 特にイネ科雑草に効果が悪い。ツユクサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 2. 生育期に使用するときは茎葉にかからないように畦間に散布する。	
9	ナフ乳剤 [NP-55乳] -H元	セトキシム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫60日前まで	150~200ml	●											1. スズメノカタバタを除く一年生イネ科雑草に着効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は運動性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注 意する。	
10	ハス液剤 [Hoe-866液] -H元	グルホシネート 18.5%	雑草茎葉散布 植付後畦間処理 雑草生育初期~生育期 (雑草草丈20cm以下) 収穫30日前まで	300~500ml	●											1. 薬剤が雑草の茎葉全体に均一にかかるように散布する。 2. 薬液が茎葉にかかると奇形いもの発生する恐れがあるので、地際部を含め薬液が飛散しないように 散布する。 3. 散布後6時間以内に降雨が予想される場合は、散布を避ける。	
11	ホネ入り乳剤 [NP-61乳] -H13	テラロキシン 10%	雑草茎葉散布又は全面散布 生育期・全面 イネ科の3~5葉期 収穫30日前まで	75~100ml	●											1. 運動的であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに7~10日(スズメノカタバタは2~3週間)を要する ので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. 広葉雑草などが混生する場合は、これらの雑草に着効した際の体系で使用する。 3. アブラナ科野菜の一部に薬害を生じる場合があるので、飛散には十分注意する。	
12	ホルト707フル [NC-360] -H19	キサロホップエチル 7%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~8葉期 収穫7日前まで	200~300ml	●											1. スズメノカタバタを除く一年生イネ科雑草に着効。 2. 広葉雑草やカヤツリグサ科の雑草には効果がなく、これらの雑草が混生する場合は有効な除 草剤の体系で使用。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草	効果の程度							本 剤 の 使 用 回 数	毒 性	新 規 ・ 改 訂	
						一年生雑草	イネ科雑草	多年生雑草	カスミソウ科	アブラナ科	アカザ科	タネ科				キク科
13	ロツツク [リニロノ水和] -H3,H6,H18	リニロノ 50%	全面土壌散布 植付直後 畦間土壌散布 生育期 雑草発生前～揃期 収穫60日前まで	100～150g	●									2	1. 砂質土で透水性のよい畑では葉害を生じることがあるので、散布を避ける。 2. 畦間土壌処理は作物に飛散しないよう注意する。	
14	ロツツク殺剤 [MB-206粒] -S63	リニロノ 1.5%	全面土壌散布 植付後 雑草発生前	6kg	●									1	1. 砂質土で透水性のよい畑では葉害を生じることがあるので、散布を避ける。	
15	ワザイTP乳剤 [SL-236(L)乳] -H20	7-ルジホップP 17.5%	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 収穫30日前まで	50～100ml	●									1	1. スズメカタタバタを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草とスズメカタタバタが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 選別性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるので、誤ってまき直しなどしないよう注意する。	

(4) ごぼう

1	ワカロツツク水和剤 [ワロサミ水和] -H10,H12	7-ロサミト 50%	全面土壌散布 は種後 雑草発生前	200～300g (但し、べたが け栽培は100～ 200g)	●									1	1. 暑まき栽培がべたがけ栽培に適用する。 2. 出芽から生育が遅延し、収穫時期がやや遅れることがある。 3. 低温期に高葉量散布すると生育遅延による収量減が大きくなることがある。 4. 砂土では使用しない。 5. キク科雑草・カヤツリグサは除く。低葉量でシロゾラに効果が劣る。	
2	カロIPC乳剤 [PC乳] -H10,H11	IPC 45.8%	全面土壌散布 は種直後 雑草発生前	香まき 200～300ml 晩香まき 200～400ml	●									1	1. シロゾラ、スカシタゴボウ、ツユクサ、キク科に効果が劣る。ハコベ、タデ類、スベリヒユに効果が低い。 2. 香まきのべたがけ栽培およびマルチ栽培では葉害が生じるので使用しない。 3. 砂質土壌では使用をさけること。	
3	サツク液剤 [AH-O1液] -H20	グルホネートP7トリウム 塩 11.5%	畦間茎葉散布 雑草生育期 (収穫前日まで)	300～500ml 水量100～ 150L	●									2	1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し畦間に精度良く散布する。 2. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に葉害を生じる。	
4	ナブ乳剤 [NP-55乳] -S62,H31	セトキシム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3～5葉期 収穫30日前まで	150～200ml	●									1	1. スズメカタタバタを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で、完全枯死までに7～10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないよう注意する。	
5	ホルトワフル [NC-360] -F3	キサロップエール 7%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の6～8葉期 収穫30日前まで	200ml	●									1	1. スズメカタタバタを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカヤツリグサ科の雑草には効果がなく、これらの雑草が混発する場合は有効な除草剤との体系で使用する。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないよう注意する。	新

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草							効果の程度							毒 性	本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂
					一 年 生 雑 草	イ ネ 科 雑 草	一 年 生 雑 草	多 年 生 雑 草	カ ス タ メ ノ ビ ノ	ア ス メ ノ ビ ノ	ア カ ザ 科	タ デ 科	キ ク 科	ハ コ ベ	ツ ユ ク サ	ス ベ リ ヒ ユ					

(5)はくさい

1	1 コーゴ-サン乳剤 [ANK-553乳] -H1元	ペンチイメタリン 30%	全面土壌散布 定植前 雑草発生前	200~300ml	●												1. 発生後の雑草には、効果が劣るので使用時期を失しないようにする。 2. はげしい降雨が予想される時には使用を避ける。 3. セル成型苗には薬害が発生する恐れがあるので使用を避ける。 4. 後作物としてかぼちゃや等のうり科やほうれんそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。	1	
2	トリアア/サイト乳剤 [トリアリリン乳] -S44	トリアリリン 44.5%	全面土壌散布 は種直後(直播) 植穴掘前(移植) 雑草発生前	200~300ml	●				△								1. 特にイネ科雑草に効果が高い。ツユクサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。	1	
3	トリアア/サイト粒剤2.5 [トリアリリン粒] -H3	トリアリリン 2.5%	全面土壌散布 は種直後(直播) 定植前(植穴掘前)(移植) 雑草発生前	直播: 3~5kg 移植: 4~5kg	●				△								1. 特にイネ科雑草に効果が高い。ツユクサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 2. 必ず土壌表面散布で使用する。 3. 後作としてイネ科作物やほうれんそうなどの作付予定地では、残効期間を考慮して作付けする。	1	
4	7ア乳剤 [NP-55乳] -S62	セキソジム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫14日前まで	150~200ml	●				-								1. スズメカカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で、完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 4. イネ科雑草6~8葉期(収穫14日前まで)まで登録拡大(R5)(ただし、使用量200ml/10aのみ)	1	
5	ホル70アフル [NC-360] -H25	キサロホフエチル 7%	雑草茎葉散布又は全面散布 定植後 イネ科雑草3~6葉期 収穫21日前まで	200ml	●				-								1. スズメカカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカヤツリグサ科の雑草には効果がなく、これらの雑草が混発する場合は有効な除草剤との体系で使用する。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	1	

(6)キヤベツ

1	アフロックス水和剤 [フロキサミト水和] -H12	フロキサミト 50%	全面土壌散布 定植直後 雑草発生前 春~夏播移植栽培	300g	●												1. キク科、カヤツリグサ科を除く。 2. イズエ、シロザ、タニシバに効果が劣ることがある。	1	
2	1 コーゴ-サン乳剤 [ANK-553乳] -S61	ペンチイメタリン 30%	全面土壌散布 定植前 雑草発生前	200~400ml	●				△								1. 発生後の雑草には効果が劣るので、使用時期を失しないようにする。 2. はげしい降雨が予想される時には使用を避ける。 3. セル成型苗には薬害が発生する恐れがあるので使用を避ける。 4. 後作物としてかぼちゃや等のうり科やほうれんそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。	1	
3	1 コーゴ-サン細粒剤F [ANK-553細粒] -H1元	ペンチイメタリン 2.0%	全面土壌散布 定植前又は定植後 (雑草発生前)	4~5kg	●				△								1. 発生後の雑草には効果が劣るので、使用時期を失しないようにする。 2. はげしい降雨が予想される時には使用を避ける。 3. セル成型苗には薬害が発生する恐れがあるので使用を避ける。 4. 後作物としてかぼちゃや等のうり科やほうれんそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。 5. 適用土壌は砂壤土~埴土である。	1	

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草		効果の程度							本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂	
					一 年 生 雑 草	イ ネ 科 雑 草	一 年 生 雑 草	多 年 生 雑 草	カ ス メ ビ ラ	ア ス メ メ ナ 科	ア カ ザ 科	タ テ 科	キ ク 科			ハ コ ベ
4	セト乳剤 〔S-604乳〕 -H20	カトジム 24%	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 収穫30日前まで	50～75ml	●		-	-	-	-	-	-	-	-	1	1. やや運動性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1～2週間程度を要するので、誤ってま を直しなどしないように注意する。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系 で使用する。 3. 低温時には、効果が劣る場合がある。
5	トリアアサト粒剤2.5 〔トリアアサト粒〕 -H3	トリアアサト 2.5%	全面土壌散布 定植前(植穴掘前) 雑草発生前	4～5kg	●		△	△	△	△					1	1. 特にイネ科に効果が高い。ツユクサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 2. 適応作型は、重どりと及びり栽培とする。 3. 散布後、土と混和すると薬害を生じやすいので混和しない。 4. 後作としてイネ科作物やほうれんそうなどの作付予定地では、残効期間を考慮して作付けする。
6	ナブ乳剤 〔NP-55乳〕 -S63	セトキシム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3～5葉期 収穫14日前まで	150～200ml	●		-	-	-	-	-	-	-	-	1	1. スズメカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は運動性で、完全枯死までに7～10日程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように 注意する。
7	アクトスターP乳剤 〔BAS-666乳〕 -H13	ジメチルP 64.0%	全面土壌散布 定植後 雑草発生前 定植後10日まで	50～75ml	●		-	-	-	-	-	-	-	-	1	1. 初期生育抑制を生ずることがあるので薬量を厳守する。 2. アカザ科、アブラナ科、タテ科を除く、一年生雑草に効果がある。 3. 散布直後の多量の降雨は薬害のおそれがあるので、天候をみきわめて散布する。 4. 砂土では使用しない。
8	ホルプロアフル 〔NC-360〕 -H24	キサロホップエチル 7%	雑草茎葉散布又は全面散布 定植後 イネ科雑草3～6葉期 収穫30日前まで	200ml	●		-	-	-	-	-	-	-	-	1	1. スズメカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やカヤツリグサ科の雑草には効果がないので、これらの雑草が混在する場合は、有効な除 草剤との体系で使用する。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。
9	ラツソ乳剤 〔ラツソ乳〕 -S46	アラクロール 43%	全面土壌散布 定植後 雑草発生前 定植8日後まで	200ml	●										1	1. 出芽後の雑草には効果がない。 2. 砂質土での使用を避ける。 3. きゅうり、ねぎにかかると薬害を生ずる。
10	アクトスターP乳剤 〔SL-236(L)乳〕 -H14	フルジホップP 17.5%	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期 イネ科雑草3～5葉期 収穫30日前まで	50～100ml	●		-	-	-	-	-	-	-	-	1	1. スズメカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草とスズメカタビラが混在する場合は、これらの雑草に有効な除 草剤との体系で使用する。 3. 運動性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるので、誤ってまき直 しなどしないように注意する。

(7)レタス

1	アクトスターP水和剤 〔アクトスター水和〕 -H20	フルジホップP 50%	全面土壌散布 定植後 雑草発生前 ただし定植14日後まで	200～300g	●		○								1	1. キク科、カヤツリグサ科を除く。
---	----------------------------------	-------------	---------------------------------------	----------	---	--	---	--	--	--	--	--	--	--	---	--------------------

(8)ブロッコリー

1	アクトスターP水和剤 〔アクトスター水和〕 -H17	フルジホップP 50%	全面土壌散布 定植後(移植栽培) 雑草発生前 ただし定植14日後まで	200～300g	●		○								1	1. キク科、カヤツリグサ科を除く。 2. 根元に薬剤が付着した場合には薬害の恐れがある。
---	----------------------------------	-------------	---	----------	---	--	---	--	--	--	--	--	--	--	---	--

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草	効果の程度							毒性	本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂	
						一年生雑草	イネ科雑草	多年生雑草	カスターメノ ビロ	アブラナ科	アカザ科	タネ科				キク科
2	アケナールP乳剤 〔BAS-656乳〕 -H27	ジメチアトP 64.0%	全面土壌散布 定植後 雑草発生前 但し、収穫30日前まで	50～75ml	●									1	1. 夏期の高温時は葉害を生じるおそれがあるので使用しないこと。 2. アカザ科、アブラナ科、タネ科を除く一年生雑草に効果がある。 3. 散布後の多量の降雨は葉害のおそれがあるので、天候をよきわめて散布する。 4. 砂土では使用しない。	
3	ホルプロフル 〔NG-360〕 -H26	キザロホツエト 7%	雑草茎葉散布又は全面散布 定植後 イネ科雑草3～6葉期 収穫7日前まで	200～300ml 水量25～100L	●									1	1. スズメノカタタリを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草やアブラナ科の雑草には効果が無いので、これらの雑草が混生するほ場では有効な除草剤別の体系で使用する。 3. イネ科雑草が完全に枯死するには約1週間を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 (少水量散布) 1. 専用ノズルを使用する。	新

(9)ほうれんそう

1	アケナール液剤 〔M&B-9057液〕 -S60	アセラム 37%	全面土壌散布 春～初夏まき は種直後 雑草発生前	800～1,000ml	●									1	1. 出芽後の処理では葉害を生じる。 2. 芽出し播種は800mlとする。 3. 雨よけ栽培及び連作ほ場での使用は避ける。 4. 高温時(25℃以上)では葉害を生じやすいので使用しない。 5. 砂壤土、砂土では葉害を生じやすい。	
2	ハズミド微粒剤 カスタード微粒剤 〔EJL-361微粒〕 -H12	ダブゾット 96.5%	全面土壌湿和処理 は種10日前 雑草発生前	30kg	●									1	1. 適用病害虫は萎凋病、株腐病、立枯病、根腐病。 2. 地温15℃以下では散播期間を延長し、10℃以下では使用しない。 3. は種21日前までに土壌表面散布し、15～20cmの深さに土壌湿和後、ビニールで7～14日被覆後、2～3日おきに2回以上の耕起によりガス抜きする。	

(10)たまねぎ

1	アケナール乳剤 アケナールB乳剤 〔アケキシル乳〕 -S54,S58,H9	アケキシル 30%	雑草茎葉散布又は全面散布 ・6月上旬まで雑草3～5葉期 ・倒伏始期以降雑草の草丈10cm 以内 収穫30日前まで (直播栽培) 雑草茎葉散布又は全面散布 雑草1～2葉期 たまねぎの1葉期以降～6月下旬 まで 収穫30日前まで	100～150ml 30～50ml	● 広 葉									2	1. 草害性が強いので十分留意する。 2. 散布時期が遅れ、夏期高温時の散布は生育の状態によっては、葉害を生じることがあるので、6月上旬までに散布する。 3. 散布は除草剤専用ノズルを使用し、高圧の散布を避ける。 4. イネ科雑草対象薬剤との体系散布を行う。	
2	アケナール水和剤 〔アケサミト水和〕 -H25	アケサミト 50%	全面土壌散布 定植活着後(春播移植栽培) 雑草発生前 収穫45日前まで	300g 200～300g	●									2	1. キク科、カヤツリグサ科を除く、一年生雑草に有効。 1. スズメノカタタリを含む一年生イネ科雑草に有効。	
3	ケラックス水和剤 〔SKH-01水和〕 〔AKD-7164水和〕 -H25	シアンジン 50%	全面土壌散布 定植活着後 雑草発生前 収穫30日前まで (直播栽培) 全面土壌散布 播種後出芽前(雑草発生前)	150～200g 50～100g 75～100g	● 広 葉									1	1. 特にハコベ、タネ類、シロネ、スカシタコボウ、ノボロギク、スベリヒユに効果が高い。 2. ツユクサに効果がある。 3. 砂土、水はけの良い土壌では、葉害を生じる恐れがあるので使用を避ける。また雨の多い時期は使用を避ける。 4. 高温時の散布では葉害を生じる恐れがあるので所定範囲内の少ない量の散布とする。	

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草							効果の程度							毒 性	本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂
					一 年 生 雑 草	イ ネ 科 雑 草	一 年 生 雑 草	多 年 生 雑 草	カ タ シ ビ ロ	ア ス メ ナ 科	ア カ ザ 科	タ デ 科	キ ク 科	ハ コ ベ	ツ ク サ	ス ベ リ ヒ ユ					
4	ケルソート乳剤 〔S-28乳〕 -S52	ブガモス 50%	全面土壌散布 定植後 雑草発生前 収穫60日前まで	200～300ml	●	△										1. ノボロキク、ツククサに効果がある。 2. 土壌が過湿条件下では、薬害の出る可能性があるため使用を避ける。 3. 土壌が極度に乾燥している場合は効果が劣る。 4. 適用土壌は砂壤土～埴土である。					
5	ケロIPC 〔IPC乳〕	IPC 45.8%	全面土壌散布 定植活着後又は中耕後 収穫30日前まで	200～250ml	●	△										1. 特にハコベ、タデ科、スベリヒユに効果が高い。シロサ、スカンタゴボウ、ツククサに効果が劣る。 2. 土壌が乾燥している時は効果が劣る。					
6	ゴースルS水和剤 〔NK-1101水和〕 -H27	S-トラプロール 24.8% プロトリン 26.6%	全面土壌散布 定植活着15日後まで (雑草発生前) 又は中耕除草後 収穫90日前まで	150～225g	●											1. 薬害を生ずるおそれがあるため、埴土、整地および覆土は避けに行う。 2. 砂土では使用しない。					
7	ゴコーサン乳剤 〔ANK-553乳〕 -S51、H26 -H19	ベンチイタリン 30%	全面土壌散布 移植栽培 定植活着後 雑草発生前 収穫30日前まで (直播栽培) 全面土壌散布 播種後～本葉2葉期 雑草発生前	300～500ml 200～400ml	●	△										1. 薬量が多いと生育が抑制されることがある。 2. 発生後の雑草には、効果が劣るため使用時期を失しないようにする。 3. 土壌が乾燥している時は効果が劣るため、希釈水量を多めにするか、又は降雨後に散布する。 4. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やほうれんそう、そばを作付けると生育が抑制されることがあるので避ける。					
8	ゴコーサン細粒剤F 〔ANK-553細粒〕 -S62	ベンチイタリン 2.0%	全面土壌散布 定植後 雑草発生前 収穫30日前まで	5～6kg	●	△										1. 土壌が乾燥している時は効果が劣るため、適度な水分のときに散布する。 2. 散布むらのないようにする。 3. 後作物としてかぼちゃ等のうり科やほうれんそう、そばを作付けると生育が抑制されることがあるので避ける。 4. 適用土壌は砂壤土～埴土である。					
9	エポラル 〔SSH-130粒〕 -H13	トリフルリン 1.2% ベンチイタリン 1.2%	全面土壌散布 定植後 雑草発生前 収穫75日前まで	4～6kg	●											1. ツククサ、キク科雑草を除く一年生雑草で有効。 2. 土壌過湿条件下で処理する。 3. 適用土壌は砂壤土～埴土である。					
10	レノケ乳剤 〔S-604乳〕 -H24	ケトジム 24%	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期(イネ科の3～5葉期) 収穫21日前まで	50～75ml	●											1. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 2. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7日程度を要する。スズメノカタビラは、これよりやや数日を要することがある。					
11	タチタウカQ 〔ZK-122液〕 -H19	グリホサートカリウム塩 44.7%	畦間処理：雑草生育期 (高さ30cm以下) 但し、収穫7日前まで	250～500ml (水量25～50L)	●											1. 薬剤が雑草丈30cm以下の莖葉全体に均一にかかるように散布すること。 2. 少量散布の場合には、専用ノズルを使用すること。					
12	トラリアサト乳剤 〔トリフルリン乳〕 -H3	トリフルリン 44.5%	全面土壌散布 定植後収穫75日前まで 雑草発生前	200～300ml	●	△										1. 特にイネ科雑草に効果が高い。ツククサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。					
13	トラリアサト乳剤2.5 〔トリフルリン粒〕 -S56	トリフルリン 2.5%	定植後全面土壌散布又は生育期 畦間土壌散布(但し、収穫75日前 まで) 雑草発生前	4～5kg	●	△										1. 特にイネ科雑草に効果が高い。ツククサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 2. 生育期畦間土壌表面散布を行う場合は、中耕除草後に実施し、作物体に散布しないようにする。					

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草							効果の程度							毒 性	本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂
					一 年 生 雑 草	イ ネ 科 雑 草	多 年 生 雑 草	カ ス タ メ ノ ビ ラ	ア ス メ ノ コ	ア カ ザ 科	タ テ 科	キ ク 科	ハ コ ベ	ツ ク サ	ス ベ リ ヒ ユ						
2	コーゴサン細粒剤F 〔ANK-553細粒〕 -H3	ベンデメタリン 2.0%	全面土壌散布 定植直後 雑草発生前 定植10日後まで	4~6kg	●				△								1. キク科雑草、ツククサには効果が劣る。 2. 発生後の雑草には効果が劣るので、使用時期を失しないようにする。 3. 土壌が極端に乾燥している場合は効果が劣るので適度の水分の時に散布する。 4. 後作物としてかぼちゃ等のうり料やほろんそう、そばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。 5. 適用土壌は砂壤土~埴土である。	1			
3	コンボラル 〔SSH-130粒〕 -H15	トリフルリン 1.2% ベンデメタリン 1.2%	全面土壌散布 定植直後 雑草発生前	4~6kg	●				-								1. ツククサ、キク科雑草を除く、一年生雑草で有効。 2. 土壌適湿条件で処理する。	1			
4	トリフサイト乳剤 〔トリフルリン乳〕 -H19	トリフルリン 44.5%	全面土壌散布 定植後 雑草発生前 但し、収穫30日前まで	200~300ml	●			△	△								1. 特にイネ科雑草に効果が高い。ツククサ、キク科、カヤツリガサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。	2			
5	ナブ乳剤 〔NP-55乳〕 -H6	セトキンム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫30日前まで	150~200ml	●			-	-	-	-	-	-	-	-	-	1. スズメカカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 4. イネ科雑草6~8葉期(収穫30日前まで)まで登録拡大(H5)(ただし、使用量200ml/10aのみ)	1			
6	バスターミ微粒剤 ガスターミ微粒剤 〔EJL-861微粒〕 -H10	ダゾメト 96.5%	全面土壌湿和処理 播種14日前まで 雑草発生前	30kg	●												1. 適用病害虫は苗立枯病、ネギハモグリバエ、白絹病、小菌核腐敗病、紅色根腐病。 2. 地温15℃以下では殺菌効果を延長し、10℃以下では使用しない。 3. は種21日前までに、土壌表面処理、15~20cmの深さに土壌混和後ピニール等で7~14日被覆後、2~3日おき2回以上の耕起によりガス抜きをする。	1			

(12) にんにく

1	カマート乳剤 〔アタホス乳〕 -H7	アタホス 50%	全面土壌散布 植付後、萌芽前 雑草発生前	200~300ml	●				△								1. キク科雑草、ツククサに効果が劣る。 2. 土壌が過湿条件下では、葉害の出ることがあるので使用を避ける。 3. 土壌が極度に乾燥している場合は効果が劣る。 4. 適用土壌は砂壤土~埴土である。	1	
2	カマート乳剤 〔アタホス乳〕 -H7	アタホス 3%	全面土壌散布 植付後、萌芽前 雑草発生前	4~6kg	●				△								1. キク科雑草、ツククサに効果が劣る。 2. 土壌が過湿条件下では、葉害の出ることがあるので使用を避ける。 3. 土壌が極度に乾燥している場合は効果が劣る。 4. 適用土壌は砂壤土~埴土である。	1	
3	コーゴサン乳剤 〔ANK-553乳〕 -H3	ベンデメタリン 30%	全面土壌散布 植付後(雑草発生前) 収穫60日前まで	300~500ml	●				△								1. キク科雑草、ツククサには効果が劣る。 2. 発生後の雑草には効果が劣るので、使用時期を失しないようにする。 3. 土壌が乾燥しているときは効果が劣るので、適度な水分のときに散布する。 4. 後作物としてかぼちゃ等のうり料やほろんそう、そばを作付けると、生育が抑制することがあるので避ける。 5. 適用土壌は埴土~埴土である。	1	
4	コーゴサン細粒剤F 〔ANK-553細粒〕 -H6	ベンデメタリン 2.0%	全面土壌散布 植付後(雑草発生前) 収穫60日前まで	4~6kg	●				△								1. キク科雑草、ツククサには効果が劣る。 2. 発生後の雑草には効果が低下するので、使用時期を失しないようにする。 3. 後作物としてかぼちゃ等のうり料やほろんそう、そばを作付けると、生育が抑制することがあるので避ける。 4. 適用土壌は砂壤土~埴土である。	1	

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草										毒 性	本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂
					一 年 生 雑 草	イ ネ 科 雑 草	一 年 生 雑 草	多 年 生 雑 草	カ ス タ メ ノ ビ ロ	ア ス メ メ ノ ビ ロ	ア カ ザ 科	タ デ 科	キ ク 科	ハ コ ベ			

(16)メロン

1	トリアフ/サト乳剤 〔トリフルリン乳〕 -S44	トリフルリン 44.5%	露地トンネルマルチ栽培 全面土壌散布 定植前マルチ前(植穴掘前) 雑草発生前	200ml	●					△						2	1. 特にイネ雑草科に効果が高い。ツユクサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科には効果が劣る。 2. 適応作型は、露地トンネル、マルチ栽培とする。 3. マルチ下処理は実面積当り薬量を算出して使用する。 4. 定植の時、根が直接薬に触れないように注意する。 5. 散布は定植7日以上前とし、マルチをする。その後、定植数日前に定植箇所のマルチを切開し、気化した薬剤を揮散させてから定植する。
2	トリアフ/サト乳剤 〔トリフルリン乳〕 -S46	トリフルリン 2.5%	露地トンネルマルチ栽培 全面土壌散布 定植前マルチ前(植穴掘前) 雑草発生前	3kg	●					△						2	1. 特にイネ雑草科に効果が高い。ツユクサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科には効果が劣る。 2. 適応作型は、露地トンネル、マルチ栽培とする。 3. マルチ下処理は実面積当り薬量を算出して使用する。 4. 定植の時、根が直接薬に触れないように注意する。 5. 散布は定植7日以上前とし、マルチをする。その後、定植数日前に定植箇所のマルチを切開し、気化した薬剤を揮散させてから定植する。
3	カマート乳剤 〔S-28乳〕 -H4	ブタホス 50%	全面土壌散布 定植・マルチ前 雑草発生前	300～400ml	●					△						1	1. マルチ下処理は実面積当り薬量を算出して使用する。 2. セル成型苗では使用しない。(葉害) 3. 定植の時、根が直接薬に触れないように注意する。 4. 適用土壌は砂壌土～埴土である。
4	ハスダ液剤 〔Hoe-866液〕 -H5	グルホシネート 18.5%	収穫30日前まで(雑草生育期 定 植前又は畦間処理)	300～500ml	●											2	1. 露地、トンネル、マルチ栽培の畦間に使用する。

(17)かぼちゃ

1	トリアフ/サト乳剤 〔トリフルリン乳〕 -S63	トリフルリン 2.5%	トンネル・マルチ栽培 全面土壌散布 定植前マルチ前(植穴掘前) 雑草発生前	2kg	●					△						2	1. 特にイネ雑草科に効果が高い。ツユクサ、キク科、カヤツリグサ科、アブラナ科雑草には効果が劣る。 2. マルチ下処理は実面積当り薬量を算出して使用する。 3. 定植の時、根が直接薬に触れないように注意する。 4. 散布は定植7日以上前としマルチをする。その後、定植数日前に定植箇所のマルチを切開し、気化した薬剤を揮散させてから定植する。
2	セト乳剤 〔S-60乳〕 -H24	セトゾム 24%	トンネル・マルチ栽培 畦間土壌散布 畦間土壌散布(トンネル除去前) 雑草発生前 (収穫45日前まで)	4～5kg	●											1	1. やや運動性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1～2週間程度を要するが、スズメノカタビラに対してはさらに期間を要する可能性があるため、誤ってまき直しなどしないように注意する。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 低温時には、効果が劣る場合がある。
3	ナブ乳剤 〔NP-55乳〕 -H22	セトゾム 20%	かぼちや生育期 雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期 (一年生イネ科雑草3～5葉期) 収穫30日前まで	50～75ml	●											1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は連効性で、完全枯死までに7～10日程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 〔指 導 参 考 掲 載 年 次〕	有 効 成 分 名 及 び 含 有 量 (%)	使 用 方 法 及 び 使 用 時 期	10a 当 たり 製 品 使 用 量	効 果 の 程 度										毒 性	本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂
					一 年 生 雜 草	イ ネ 科 雜 草	一 年 生 雜 草	多 年 生 雜 草	カ ス メ ノ ビ ノ	ア ス メ ノ ナ 科	ア カ ザ 科	タ デ 科	キ ク 科	ハ コ ベ			

(18)アスパラガス
ア 苗 床

1	1) 刈りPC乳剤 〔PC乳〕	IPC 45.8%	全面土壌散布 は種直後	200～300ml	●				△	○	○	○	○	○	○	○	1	1. ハコベ、タデ類、スベリヒユに効果が高い。 2. 土壌が乾燥しているときは効果が劣るので、覆土は厚め(2cm)とし、希釈水量を多めにする。 3. 砂質土及び透水性の良い畑では蒸害が生じやすいので、使用を避ける。
---	--------------------	-----------	----------------	-----------	---	--	--	--	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

イ 収穫畑(ホワイト)

1	1) クラゲス水和剤 〔SKH-01水和〕 -S55	シアジン 50%	全面土壌散布 萌芽前または収穫後 (培土後又は培土くずし後) 雑草発生前	200g	●				○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 特にハコベ、タデ、シロサ、オオノスアグリ、ノボロキクに効果が高い。イネ科雑草、ツユクサには効果が劣る。 2. 出芽前より出芽初期(2～3葉期)の雑草を枯死させるが、雑草発生前の散布が最も高い除草効果を示す。 3. 残効は、春処理(培土後)45日、培土くずし後処理45～60日である。
2	2) 刈りPC 〔PC乳〕	IPC 45.8%	全面土壌散布 培土後 雑草発生前 収穫30日前まで	250～300ml	●				△	△	○	○	○	○	○	○	1	1. ハコベ、タデ類、スベリヒユに効果が高い。 2. 土壌が乾燥しているときは効果が劣るので、適湿度の時散布する。 3. 除草効果は低温時に高い。
3	3) セコル水和剤 〔NTN-70水和〕 -S51	メリアジン 50%	全面土壌散布 又は雑草茎葉散布 萌芽前～萌芽初期 全面土壌散布 又は雑草茎葉散布 収穫打切後 (培土後又は培土くずし後) 雑草発生前～雑草4.5葉期	100～150g	●												1	1. 雑草の発生初期の処理で、効果が高い。 2. 有機質含有量の少ない土壌では使用量の範囲内で少な目の薬量を使用する。 3. 隣接ほ場、特にてん菜、アブラナ科野草などへの飛散による蒸害に注意する。 4. 苗床及び未収穫茎成畑では、使用を避ける。また、未収穫茎成畑において間作物を作付けする場合は使用しない。 5. 適用土壌は砂壌土～埴土である。
4	4) ロック 〔リエコ水和〕 -S40	リエコ 50%	全面土壌散布 萌芽前(培土後) 雑草発生前～初期	150g	●									○			1	1. 雑草の発生初期の処理で、効果が高い。

ウ 収穫畑(グリーン)

1	1) クラゲス水和剤 〔SKH-01水和〕 -S55	シアジン 50%	全面土壌散布 萌芽前又は収穫後 雑草発生前	200g	●				○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 特にハコベ、タデ、シロサ、オオノスアグリ、ノボロキクに効果が高い。イネ科雑草、ツユクサには効果が劣る。 2. 出芽前より出芽初期(2～3葉期)の雑草を枯死させるが、雑草発生前の散布が最も高い除草効果を示す。
2	2) カルマト乳剤 〔S-28乳〕 -H9	ファミホス 50%	全面土壌散布 萌芽前 雑草発生前	200～400ml	●								△				1	1. キク科雑草、ツユクサに効果が劣る。 2. 土壌が乾燥している場合には効果が劣るので、降雨後土壌が適湿の時に散布する。 3. 発生後の雑草には効果が劣るので使用時期を失しないようにする。 4. 適用土壌は砂壌土～埴土である。

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草							毒性	本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂	
					一 年 生 雑 草	イ ネ 科 雑 草	一 年 生 雑 草	多 年 生 雑 草	カ タ シ ビ ロ	ア ブ ラ ナ 科	ア カ ザ 科				タ テ 科
3	サクナ液剤 [AH-01] -H20、H23、H28	グリホサート・IPトリアム 塩 11.5%	アスパラガス萌芽前 (雑草生育期(草丈30cm以下)) アスパラガス収穫前日まで (雑草生育期(草丈30cm以下)、 畦間茎葉散布) アスパラガス収穫打ち切り後 (雑草生育期(草丈30cm以下) 全面茎葉散布)	300～500ml	●									1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し、畦間に精度良く散布する。 2. 非選取性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に薬害を生じる。 3. アスパラガスの立茎栽培で使用する場合は、萌芽し立茎している若葉に薬害を生じるおそれがあるので、散布後新たに萌芽した若葉を用いて立茎するのが望ましい。 4. 散布1時間以内に降雨が予想される場合は、散布を避ける。	
4	セト乳剤 [S-604乳] -H16	グルトジム 24%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科雑草3～5葉期 収穫前日まで	50～75ml	●	●	●	●	●	●	●	●	●	1. やや選取性であり、イネ科雑草を完全に枯殺するまでに通常1～2週間程度を要するが、スズメノカタビラに対してはさらに期間を要する場合があるので、誤ってまき直さないように注意する。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草などが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 低温時には、効果が劣る場合がある。	
5	セコル水和剤 [NTN-70水和] -S51	メリアジン 50%	全面土壌散布 又は雑草茎葉散布 萌芽前 全面土壌散布 又は雑草茎葉散布 収穫打ち切り後 雑草発生前～4、5葉期	100～150g	●									1. 撒き薬展開後に散布した場合に、薬害を生じることがあるので作業展開前に散布し、使用量を遵守する。 2. 有機質含有量の少ない土壌では使用量の範囲内で少な目の薬量を使用する。 3. 隣接ほ場、特にてん菜、アブラナ科野草などへの飛散による薬害に注意する。 4. 苗床及び未収穫成畑では、使用を避ける。また、未収穫成畑において間作物を作付けする場合は使用しない。 5. 適用土壌は砂壤土～埴土である。	
6	ナフ乳剤 [NP-55乳] -S61	セトキンジム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3～5葉期 収穫前日まで	150～200ml	●									1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は選取性で完全枯死までに7～10日程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。 4. イネ科雑草6～8葉期(収穫前日まで)まで登録拡大(RS)(ただし、使用量200ml/10aのみ)	
7	ハス外液剤 [Hoe-866液] -S63	グリホサート 18.5%	雑草茎葉散布 雑草生育期萌芽前又は畦間処理 雑草発生初期～生育期(雑草の 草丈20cm以下) 収穫前日まで	300～500ml	●									1. 雑草茎葉に均一に散布する。 2. 散布後6時間以内に降雨が予想される場合は、散布を避ける。 3. 畦間処理は作物にかからないように留意する。	
8	ワザイトP乳剤 [SL-236(L)液] -H17	グリホサートP 17.5%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科雑草の3～5葉期 収穫前日まで	50～100ml	●									1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草およびカヤツリグサ科雑草とスズメノカタビラが混在する場合は、これらの雑草に有効な除草剤との体系で使用する。 3. 選取性のため、イネ科雑草が完全に枯死するには約3週間程度かかる場合もあるので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	
9	ワザイトPマックスロート [NG-622] -H29	グリホサート・トリカラム塩 48%	アスパラガス収穫中 (雑草生育期(草丈20～25cm以 下)、 畦間茎葉散布)	1,500ml (水量 100L/10a) 2,000ml (水量25～ 100L/10a)										1. 少量散布の場合は専用ノズルを使用する。	

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 製品使用量	対象雑草 一年生雑草 イネ科雑草 一年生雑草 多年生雑草	効果の程度							本 剤 の 使 用 回 数	新 規 ・ 改 訂
						アブラナ科	アカザ科	タネ科	キク科	ハコベ	ツユクサ	スベリヒユ		

(19) いちご

1	1) ナフ乳剤 〔NP-55乳〕 -S63	セトキシム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫開始14日前まで	150~200ml	●	-	-	-	-	-	-	-	1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は運動性で完全枯死までに7~10日程度を要する。誤ってまき直しなどしないように注意する。
2	2) ナフ乳剤 〔アラロール乳〕 -S49	アラロール 43%	全面又は株間土壌散布 定植後又は春季・マールチ前 雑草発生前 収穫60日前まで	150~200ml	●	-	-	-	-	-	-	-	2	1. 砂土での使用を避ける。

(20) 食用ゆり

1	1) ナフ乳剤 〔セトキシム乳〕 -H19	セトキシム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫30日前まで	150~200ml	●	-	-	-	-	-	-	-	2	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は運動性で完全枯死までに7~10日程度を要する。誤ってまき直しなどしないように注意する。
2	2) ロウワス 〔リニエロ水和〕 -H19	リニエロ 50%	全面土壌散布 植付後萌芽前 雑草発生前~始期	100~150g	●	○	-	-	-	-	-	-	1	

(21) みつば

1	1) ロウワス 〔リニエロ水和〕 -H19	リニエロ 50%	全面土壌散布 播種後出芽前 雑草発生前	100~150g	●	○	○	○	○	○	○	○	1	
---	-----------------------------	----------	---------------------------	----------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--

(22) もりあざみ(やまごぼう)

1	1) フロロックス水和剤 〔フロキサミ水和〕 -H19	フロキサミ 50%	全面土壌散布 播種後出芽前 雑草発生前	150~200g	●	-	-	-	-	-	-	-	1	1. キク科、カヤツリグサ科を除く、一年生雑草に有効。
2	2) ナフ乳剤 〔セトキシム乳〕 -H19	セトキシム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 イネ科の3~5葉期 収穫7日前まで	150~200ml	●	-	-	-	-	-	-	-	1	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は運動性で完全枯死までに7~10日程度を要する。誤ってまき直しなどしないように注意する。

(23) わさびだいこん

1	1) ロウワス 〔リニエロ水和〕 -H19	リニエロ 50%	全面土壌散布 植付後萌芽前 雑草発生前~発生始期	100~150g	●	○	○	○	○	○	○	○	1	
---	-----------------------------	----------	--------------------------------	----------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--

(24) あざつき

1	1) ロウワス 〔リニエロ水和〕 -H19	リニエロ 50%	全面土壌散布 植付直後~萌芽前 雑草発生前~発生始期	150g	●	-	-	-	-	-	-	-	1	
---	-----------------------------	----------	----------------------------------	------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	--

新 規 ・ 改 訂	使用上の注意事項												
番 号	商 品 名 〔試験番号〕 〔指導参考掲載年次〕	有 効 成 分 名 及 び 含 有 量 (%)	使 用 方 法 及 び 使 用 時 期	10g当たり 製 品 使 用 量	対 象 雑 草	効 果 の 程 度						本 剤 の 使 用 回 数	
					一 年 生 雑 草 イ ネ 科 雑 草 一 年 生 雑 草	カ タ ビ ラ 科	ア ス メ ノ 科	ア カ ザ 科	タ デ 科	キ ク 科	ハ コ ベ	ツ ユ ク サ	ス ベ リ ヒ ユ

(25) さやいんげん

1	1	イマサモリスアゾンエフロム塩 0.85%	雑草葉散布又は全面土壌散布 出芽直前～出芽期 雑草発生始期～発生前期	200～300ml	● 広葉								1
---	---	----------------------	--	-----------	------	--	--	--	--	--	--	--	---

1. 雑草の発生始期から初芽期にかけて高い効果を示すので、使用時期を遅しないうちに散布する。
2. 使用時期を逸すると作物の生育に影響が出る恐れがある。
3. 有機リン系統虫剤又はイネ科雑草処理除草剤との10日以内の近接散布は、葉害の恐れがあるので避ける。
4. 周辺の作物に薬液がかかからないよう十分注意する。

(26) 実えんどう

1	1	フルメチキサジン 50%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前)	5～10g	● 広葉								1
---	---	--------------	-----------------------------	-------	------	--	--	--	--	--	--	--	---

1. 処理時期が出芽期に近いと生育抑制を生じる場合があるので、処理が遅れないようにする。
2. 本剤は使用後著しい降雨があると、初生葉に萎縮を生じることがある。
3. 本剤散布に用いた器具類は、タンクホース内に薬剤が残らないよう、使用後できるだけ早く、専用の洗剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、葉害の原因にならないよう注意する。

雑草防除ガイド掲載農薬一覧(除草剤)

3-4 花き類・観葉植物、樹木類

●=対象雑草、○=対象外、△=効果が高い、△=劣る、空欄=草種別評価なし

番 号	商品名 〔試験番号〕 (指尊参考掲載年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 使用量	対象雑草										毒性	本 剤 の 使 用 回 数	注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
					一年生雑草	一年生イネ科雑草	多年生雑草	スズメノカタビラ	アブラナ科	アカザ科	タデ科	キク科	ハコベ	ツユクサ				

(1)カーネーション

1	1サカ液剤 [AH-01液] -H21	グリホサートPナトリウム 塩 11.5%	雑草茎葉散布 雑草生育期 30cm以下)	300~500ml	●											3	1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し畦間に精度良く散布する。 2. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に葉害を生じる。	
2	ハズミシ、微粒剤 ガスタード、微粒剤 [B.U-86]〔微粒〕 -H13	タソメト 96.5%	全面土壌混和処理 定植前 雑草発生前	20~30kg	●											1	1. 地温15℃以下では被覆期間を延長し、10℃以下では使用しない。 2. 深さ15~25cmに湿和後、ビニールフィルムで7~14日間被覆処理する。 3. ガス抜きが不十分な場合は生育抑制の事例があるので、定植前に被覆を除去し、少なくとも2回以上の耕起によるガス抜きを行う。	

(2)きく

1	1サカ液剤 [AH-01液] -H22	グリホサートPナトリウム 塩 11.5%	雑草茎葉散布 雑草生育期 30cm以下)	300~500ml	●											3	1. 畦間処理は作物にかからないことを前提とした処理方法であり、飛散防止装置を装着し畦間に精度良く散布する。 2. 非選択性の薬剤であり、作物に飛散すると付着した部分に葉害を生じる。	
2	ラクトアリアマックスロード [NC-622液] -H22	グリホサートナトリウム塩 48%	雑草茎葉散布 耕起前まで(雑草生育期)	200~500ml	●											2	1. 散布後1時間以内に降雨のない日に散布する。 2. 周辺の作物に薬液がかからないように注意するとともに、ドリフト低減ノズル(ラウンドノズル等)の使用が望ましい。 3. 少水量散布にあつては、専用ノズルを使用する。	

(3)ひまわり

1	ラクトアリアマックスロード [NC-622液] -H22	グリホサートナトリウム塩 48%	雑草茎葉散布 耕起前まで(雑草生育期)	200~500ml	●											2	1. 散布後1時間以内に降雨のない日に散布する。 2. 周辺の作物に薬液がかからないように注意するとともに、ドリフト低減ノズル(ラウンドノズル等)の使用が望ましい。 3. 少水量散布にあつては、専用ノズルを使用する。	
---	------------------------------------	---------------------	------------------------	-----------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	--	--

(4)ライラック

1	1サカ液剤 [NP-55乳] -H6	セキソラム 20%	雑草茎葉散布又は全面散布 雑草生育期 イネ科雑草の3~5葉期	150~200ml	●											3	1. スズメノカタビラを除く一年生イネ科雑草に有効。 2. 広葉雑草対象薬剤との体系散布を行う。 3. 効果の発現は遅効性で完全枯死までに7~10日程度を要するので、誤ってまき直しなどしないように注意する。	
---	--------------------------	-----------	--------------------------------------	-----------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	---	--

(5)どうだんつつじ

1	1サカ液剤 [ZK-122液] -H23	グリホサートナトリウム塩 44.7%	雑草茎葉散布 雑草生育期(草丈30cm以下)	250~500ml (水量25~50L)	●											4	散布は専用ノズルを使用し、作物にかからないように散布する。	
---	----------------------------	-----------------------	---------------------------	-------------------------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	---	-------------------------------	--

雑草防除ガイド掲載農薬一覧(除草剤)

3-5 果樹

3-5 果樹

番号	商品名 〔試験番号〕 (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	日 数 前	主な対象雑草と10a当たり製品使用量(水量)			作用型	毒回本 回数 性 の 使用	使用上の注意事項	新 規 ・ 改 訂
					一年生雑草	多年生雑草	一年生雑草 及び多年生 雑草				

(1) りんご

1	カリロ粒剤6.7 〔DBN〕 -S46	DBN 6.7%	雑草処理 春期雑草発生期	-	-	-	幼木 8kg 成木 10kg	非ホルモン型 移行性	1	1. エゾノギンギン、ヨモギ、タノボボ、ヤブガラシ等の広葉雑草対象。 2. エゾノギンギンの株に0.8~1.0gのスプレッド処理も効果がある。 3. 雑草の生育状態により薬量を減らしてもよい。 4. 遅効性なので雑草の生育初期に処理する。 5. 3年生未満の幼木及び樹勢の弱い樹には使用を避ける。 6. 極端な砂質土壌では使用しない。	
2	クワタリンガ 〔WOC-01〕 -H10	グリホサート・イソプロピル アミン塩 41%	雑草茎葉処理 雑草生育期 春及び夏処理 草丈30cm以下	7	250ml (50~100L)	-	-	非ホルモン型 移行性	3	1. 本剤は吸収移行するので散布に当たっては、りんごの枝梢・根はえ にかからないように注意する。	
3	クワタリンQ 〔ZK-122〕 -H19	グリホサート・カリウム塩 44.7%	雑草茎葉処理 雑草生育期 春及び夏処理 草丈30cm以下	5	500ml (25~100L)	500~1000ml (25~100L)	-	非ホルモン型 移行性	3	1. 本剤は吸収移行するので散布に当たっては、りんごの枝梢・根はえ にかからないように注意する。 2. 専用少量散布ノズルを使用し、散布むらのないように注意する。	
4	ハス夕液剤 〔Hoe-866〕 -S60	グリホサート 18.5%	雑草茎葉処理 雑草生育期 春及び夏処理 草丈30cm以下	21	-	※500~750ml (100~150L)	-	非ホルモン型 接触性 移行性	3	1. 一年生雑草でも茎部が木質化している場合は効果が劣る。 2. 薬液が雑草全体に付着するように散布する。	
5	ラウンドアップ スプレッド 〔INC-622〕 -H22	グリホサート・カリウム塩 48%	雑草茎葉処理 雑草生育期 春及び夏処理 草丈30cm以下	7	500~1,000ml (25~100L)	-	-	非ホルモン型 移行性	3	1. 本剤は吸収移行するので散布に当たっては、りんごの枝梢・根はえ にかからないように注意する。 2. 散布水量が50L/10a以下の場合、少量専用散布ノズルを使用し、 散布むらのないように注意する。	

(2) ぶどう

1	クワタリンQ 〔ZK-122〕 -H19	グリホサート・カリウム塩 44.7%	雑草茎葉処理 雑草生育期 春及び夏処理 草丈30cm以下	5	500ml (25~50L)	500~1,000ml (25~100L)	-	非ホルモン型 移行性	3	1. 本剤は吸収移行するので散布に当たっては、りんごの枝梢・根はえ にかからないように注意する。 2. 専用少量散布ノズルを使用し、散布むらのないように注意する。	
2	ハス夕液剤 〔Hoe-866〕 -S61	グリホサート 18.5%	雑草茎葉処理 雑草生育期 春及び夏処理 草丈30cm以下	前日	-	※500~750ml (100~150L)	-	非ホルモン型 接触性 移行性	3	1. 一年生雑草でも茎部が木質化している場合は効果が劣る。 2. 薬液が雑草全体によく付着するように散布する。	

3-5 果樹

3-5 果樹

番 号	商品名 〔試験番号〕 (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期		主な対象雑草と10a当たり製品使用量(水量)	作用型	毒回数 毒性	使用上の注意事項	新規・ 改訂
			日収 数種 前	一年生雑草 多年生雑草 一年生雑草 及び多年生 雑草 その他					

(3)おとう

1	ハスター液剤 〔Hoe-866〕 -H元	クハルホネート 18.5%	雑草茎葉処理 雑草生育期 春及び夏処理 草丈30cm以下	前日	※500~750ml (100~150L)	非粘着性 接触性 移行性	3	1. 一年生雑草でも茎部が木質化している場合は効果が劣る。 2. 薬液が雑草全体によく付着するように散布する。
---	----------------------------	------------------	---------------------------------------	----	--------------------------	--------------------	---	--

(4)除草剤の作目別適用範囲

薬剤名・〔商品名〕	りんご	ぶどう	おとう	なし	果樹類	新規・ 改訂
1 DBN粒剤〔カロン粒剤6.7〕	●					
2 グリホサートカリウム塩液剤(48%)〔ラクトアッパックスロート〕	●			○	○	
3 グリホサートイソプロピルアミン塩液剤(41%)〔カトリキング〕	●				○	
4 グリホサートカリウム塩液剤(44.7%)〔カチタカQ〕	●	●			○	
5 グルホシネート液剤(18.5%)〔ハスター液剤〕	●	●	●	○		

〔共通留意事項〕

- ①グリホサートを含む薬剤の総使用回数は8回以内。
- ②水量の記載がない薬剤は、通常散布量の「100L/10a」程度とする。
- ③適用範囲一覧の記号：●は指導参考があり、登録を有する剤、○は登録は有するが、指導参考はなし。
- ④各ページで「主な対象雑草と10a当たり製品使用量(水量)」欄で「※」印のあるものは、指導参考となった試験で「雑草全般」だったものを登録の内容に合わせてもの。

雑草防除ガイド掲載農薬一覧(除草剤)

3-6 飼料作物

(1)とうもろこし(飼料用)

番 号	商 品 名 [試験番号] (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 使用量	主な対象雑草							毒性	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
					シ ロ ザ	タ デ 類	ハ コ ベ	ツ ク サ	ギ ン ギ ン 類	イ チ ビ	一 年 生 イ ネ 科				
1	7ルファート 液剤 [NP-65] (H26-p268) (H27-p211)	トフラメツ 3.6%	雑草茎葉散布又は全面散布 とうもろこし3~5葉期 (但し、収穫45日前まで)	100~150ml	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 散布時の展開葉に葉害(黄斑)を生じる場合があるが、その後の生育、収量には影響が無い。 2. 雑草発生が多い圃場では、初期生育での競合が懸念されるため、土壌処理剤との併用処理が望ましい。	
2	エコトップP乳剤 [NM-536-P] (H24:H26-p270)	ジメナチンP 8.5% リニロン 12%	雑草茎葉散布又は全面散布 (とうもろこし6~7葉期、一年 生雑草・イチビを含む) (但し、収穫45日前まで)	400~600ml	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 本剤は眼に強い刺激性があるので、散布液調製時に保護メガネを着用して、薬剤が眼にはいらないように 注意する。	
3	カイタツ細粒剤 [PL-10] (H7:H8-p144)	ベンチイメタリン 15% リニロン 10%	全面土壌散布 は種直後 (雑草発生前)	400~500ml	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 3. 新葉のねじれ、葉先枯れなどが発生する場合がある。	
4	カイタツ細粒剤F [PL-10] (H8:H10-p286)	ベンチイメタリン 1.5% リニロン 1.0%	全面土壌散布 は種直後 (雑草発生前)	5~6kg	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 土壌が乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分の時に散布する。 3. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前か発生初期に散布する。 4. 重複散布は葉害の恐れがあるので、散布ムラがないよう均一に散布する。 5. 新葉のねじれ、葉先枯れなどが発生する場合がある。	
5	クリアターP乳剤 [KUH-901] (H7-p128) (H12-p316)	ベンチカローブ 50% ベンチイメタリン 5% リニロン 7.5%	全面土壌散布 は種直後 (雑草発生前)	500~800ml	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. ツユクサ、キク科雑草に効果が劣る。	
6	ケサノコントロール [CG-123α] (H12:H23-p265)	アトラジン 27.8% S-メトフロール 26.4%	全面土壌散布 は種直後 (雑草発生前)	140~200ml	○	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨が続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 使用回数は全面土壌散布又は雑草茎葉散布のいずれか1回とする。 3. 使用回数は全面土壌散布又は雑草茎葉散布のいずれか1回とする。 4. 砂土系では使用しない。 5. 穂端が乾燥している場合は、カスリ状の穂腐斑を生ずることがあるので、葉量を少なくする。 6. 低湿等で生育が遅れる地域(根制)などでは、2葉期に散布する。 7. 生育の遅れる地域(根制)などでは、2葉期に散布する。 8. 使用回数は全面土壌散布又は雑草茎葉散布のいずれか1回とする。 9. 後作物として水稲を作付けると葉害が生じる恐れがあるため、使用は場における当年または翌年の水稲栽培は避ける。	

(1)とうもろこし(飼料用)

(1)とうもろこし(飼料用)

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 使用量	主な対象雑草						毒性	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
					シ ロ ザ	タ デ 類	ハ コ ベ	ツ ク ク サ	ギ シ ギ シ 類	イ チ ビ				
7	ケサフリプロアブル 〔アトラン〕 (S59)	アトラン 45%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前) 全面土壌散布及び雑草茎葉 散布 とうもろこし2~4葉期 (雑草発生前)	100~200ml	○	○	○	○				1	1. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨の続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草の発生前から発生前期に散布すると、最も効果が高い。 3. 使用回数は全面土壌散布又は雑草茎葉散布のいずれか1回とする。 4. とうもろこし2~4葉期の茎葉処理において、ハルガヤの実生に効果がある。	
8	ゴゴールS水和剤 〔NK-1101〕 (H29-p187)	S-アト7ロール 24.8% プロトリン 26.6%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前)	225~300g	○	○	○	○				1	1. 土壌が乾いていると効果が悪く。 2. 後作物として水稻を作付けると葉害が生じる恐れがあるため、使用ほ場における当年または翌年の水稻栽培は避ける。	
9	ゴゴールサン細粒剤 〔ANK-553〕 (S55-p200)	ペンテイタリン 30%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前)	200~300ml	○	○	○	○				1	1. 雑草の生育が進むと効果が低下するので、雑草の発生前か発生初期に散布する。 2. 処理時期が遅れると、葉害が生じることがある。 3. ツククサ、キク科雑草に効果が劣る。 4. 後作物としてかぼちゃや等のつり科、ほうれんそうやそばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。	
10	ゴゴールサン細粒剤F 〔ANK-553〕 (H41H5-p146)	ペンテイタリン 2%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前)	5~6g	○	○	○	○				1	1. 土壌が乾燥している場合は効果が劣るので、土壌が適度の水分の時に散布する。 2. 雑草の生育が進むと効果が低下するので、雑草の発生前か発生初期に散布する。 3. 処理時期が遅れると、葉害が生じることがある。 4. 重複散布は葉害の恐れがあるので、散布ムラがないよう均一に散布する。 5. ツククサ、キク科雑草に効果が劣る。 6. 後作物としてかぼちゃや等のつり科、ほうれんそうやそばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。	
11	シャワー水和剤 〔NC-331水和剤〕 (H24-p288) (H27-p209)	ハロアルプロンメチル 5%	雑草茎葉散布又は全面散布 とうもろこし3~5葉期、イチビ2 ~5葉期	50~75g						○		1	1. 砂土系では使用しない。 2. 有機リン系殺虫剤との混用及び7日以内の近接散布は、葉害を生ずることがあるので避ける。 3. 周辺作物、特にてんさいやあぶらな科作物に対して、葉害を生ずるおそれがあるので飛散しないように注意して散布する。 4. 使用後、タンク、ホース、ノズル内に薬液が残らないよう散布器具は十分に洗浄し、他の用途に使用する場合は、葉害の原因にならないよう注意する。 5. 飼料用とうもろこしで散布数日後、一時的に締状の退色、生育抑制を生ずることがあるが、その後の生育に影響しない。 6. 飼料用とうもろこしで耕作土壌の反転等により、極端に土壌の有機物含量が少ない場合、締状の退色、生育抑制の葉害を生じる恐れがあるので使用を避ける。 7. 散布直後の降雨によって葉害を生ずる恐れがあるので、天候を最極めて散布する。 8. 通常の輪作体系では後作物に影響はないが、本剤使用後短期間に飼料用とうもろこし以外の作物のものは避ける。 9. イチビ、キクイモ以外の雑草については、北海道指導参考となっていない。	
12	タチタウシQ 〔ZK-122液剤〕 (H21-p296)	グリホサートカリウム塩 44.7%	雑草茎葉散布 不耕起、は種後出芽前(雑草 生前期) 散布水量:50~100L	200~400ml	○	○	○	○				2	1. とうもろこし出芽後の使用は枯死するので避ける。 2. 専用ノズルを使用する。 3. 泥炭土での使用は避ける。	
			キクイモ(雑草茎葉散布)とう もろこし5葉期)	50~75g								1	1. ~9. までの注意事項は同上。 10. キクイモは枯死に至らないため再生するが、とうもろこし収穫量の低下は大幅に軽減できる。 11. とうもろこし4葉期までの処理では、収量低下軽減効果は期待できない。	

(1)とうもろこし(飼料用)

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 使用量	主な対象雑草							毒性	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
					シ ロ ザ	タ デ 類	ハ コ ベ	ツ ク サ	ギ シ ギ シ 類	イ チ ビ	一 年 生 イ ネ 科				
13	デュールコート (乳剤) [CG-119α] (H12:H23-p248) (H20:H23-p267)	S-メトプロロール 83.7%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前) 全面土壌散布 とうもろこし1~2葉期、イネ科 雑草2葉期まで	70~100ml									1	1. 砂土では使用しない。 2. 砂土系で透水性の良い圃場や、多量の降雨の続く(時期)の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 3. 後作物として水稲を作付けると葉害が生じる恐れがあるため、使用ほ場における当年または翌年の水稲栽培は避ける。	
14	ハガラソ液剤 (ナトリウム塩) [BAS-3510(Na)] (S61-p195)	ベンダリン 40%	雑草葉散布又は全面散布 広葉雑草の3~4葉期 (収穫50日前まで)	100ml									1	1. 散布後、曇天、降雨日が長く続くとうもろこしに効果があることがあり、晴天を見計らって散布する。 2. 高温条件下では葉害が生じやすいので、異常高温下での散布は避ける。	
15	ハーモニー5DF水和剤 (ナトリウム塩) [DPX-16顆粒水和] (H24-p290)	チフェンシロプロマシロ 75.0%	雑草葉散布又は全面散布 とうもろこし3~4葉期 (雑草生育期)	2g									1	1. 砂土では使用しない。 2. ギンギン類に効果がある。雑草処理剤のためギンギン類の葉が展開してから行う。 3. 有機リン系殺虫剤との混用および7日以内の近接散布は、葉害を生じる恐れがあるので避ける。 4. 本剤散布に用いた器具類は、タンクやホース内に薬液が残らないよう使用後できるだけ早く専用の洗浄剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合、薬害の原因にならないように注意する。 5. 葉害が生ずるおそれがあるので、必ず所定量及び使用時期を守り、均一に散布する。	
16	アールズP乳剤 [BAS-656] (H25-p197)	ジメチアトP 64.0%	全面土壌散布 は種後~とうもろこし2葉期(イ ネ科雑草2葉期まで)	75~120ml									1	1. 砂土では使用しない。	
17	フルンアフロフル [SL-573] (H27:H29-p189)	トリピラート 10.4%	雑草葉散布又は全面散布 とうもろこし3~5葉期 (但し、収穫45日前まで) (雑草生育期)	40~50ml									1	1. 散布時の展開葉に葉害(黄斑)を生じる場合があるが、その後の生育、収量には影響が無い。	
18	ヘルカカ乳剤 [MBH-118] (H26-p266)	フルアセトメチル 5%	雑草葉散布又は全面散布 とうもろこし4葉期以降(但し、 は種後30日まで) イチビ3~5葉期	50~75ml									1	1. 処理時の葉に葉害(黄斑、褐斑)が生じる場合がある。	
19	ホクサー [SYJ-100] (H26-p272)	フロリホカロP 78.4%	雑草葉散布又は全面散布 とうもろこし4葉期以降(但し、 は種後30日まで) イチビ5~8葉期	10ml									1	1. 処理時の葉に葉害(黄斑、褐斑)が生じる場合がある。	
			全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前)	400~500ml									1	1. 雑草の生育が進むと効果が低下するので、時期を失しないように散布する。 2. 堆肥を多く施用した圃場では、低葉量でイネ科雑草に効果が出る場合があるので、広葉雑草優占圃場で使用する。	

(1)とうもろこし(飼料用)

番 号	商 品 名 〔試験番号〕 (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び 使用時期	10a当たり 使用量	主な対象雑草						毒性	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
					シ ロ ザ	タ デ 類	ハ コ ベ	ツ ク サ	ギ シ ギ シ 類	イ チ ビ				
20	モチノ乳剤 [BAH-0805] (H24-p292,294,296)	ジメチルTP 19.7% ベンゼンイタリン 23.1%	全面土壌散布 は種後～とうもろこし2葉期、イ ネ科雑草2葉期まで	200～400ml	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土では使用しない。 2. 後作物としてかぼちゃや等のワリ科、ほうれんそうやそばを作付けると生育が抑制することがあるので避ける。	
21	ワカ-乳剤 [AL-513乳剤] (H22-p254)	アフラロール 30% リニロン 12%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前)	400～600ml	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土では使用しない。	
22	ワカ-乳剤 [アフラロール] (S58-p263) (H20)	アフラロール 43%	全面土壌散布 は種後出芽前 (雑草発生前) 雑草茎葉散布又は全面土壌 散布 とうもろこし1～2葉期、イネ科 雑草2葉期まで	200～400ml	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 土壌が乾いていると効果が劣る。	
23	トリアリットアロ77ル [NP-66H] (R3-183)	(ヒロキサスルホン 3.4% ・リニロン 24%)	全面土壌処理 は種後出芽前 (雑草発生前)	250～350ml 散布水量 100L	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 稲、大麦、ソルガムに葉害を生じるおそれがあるので、散布した当年または翌年の栽培を避ける。 2. マルチ栽培、トンネル栽培等での使用は葉害を生じるおそれがあるので避ける。	
24	ワカ-ワカ マックスロード [NC-622液] (H20-p309)	グリホサートカリウム塩 48%	雑草茎葉散布 不耕起、は種後出芽前 (雑草生育期) 散布水量50L	200～400ml	○	○	○	○	○	○	○	2	1. とうもろこし出芽後の使用は枯死するので避ける。 2. 専用ノズルを使用する。 3. 泥炭土での使用は避ける。	
25	ロックス(水和剤) [リニロン] (S41)	リニロン 50%	全面土壌散布 は種直後	150～200g	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 砂土系で透水性のよい圃場や、多量の降雨の続く時期の散布は、葉害の恐れがあるので使用を避ける。 2. 雑草が大きくなると効果が劣るので、雑草の発生前か発生初期に散布する。	
26	ワカ-ワカ乳剤 [SL-950] (H4:H7-p130)	ニコスルフロン 4.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 とうもろこし3～5葉期 (収穫30日前まで)	100～150ml	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 散布数日後一時的に緑色及び生育抑制を生ずることがある。 2. 品種によって葉害が生じる恐れがあるので注意する。 3. 本剤は、微量の成分で作物に影響を与えることがあるので、散布機械器具は家庭用洗剤等による十分な洗浄を行う。 4. 有機りん系殺虫剤との混用及び7日以内の近接散布は葉害を生ずることがあるので避ける。 5. シハムギ、レットトップに効果がある。	
27	ワカ-ワカ乳剤 [SL-574] (H29:H31-157) (H30:H31-159)	(トルビラレート 3.1% ・ニコスルフロン 3.1%)	雑草茎葉散布又は全面散布 とうもろこし3～5葉期 (収穫45日前まで)	100～200ml	○	○	○	○	○	○	○	1	1. 天候により黄化・黄斑が見られる場合あり。 2. 品種によって葉害が生じる恐れがあるので注意する。 3. 本剤は、微量の成分で作物に影響を与えることがあるので、散布機械器具は家庭用洗剤等による十分な洗浄を行う。 4. 有機りん系殺虫剤との混用及び7日以内の近接散布は葉害を生ずることがあるので避ける。 5. シハムギ、リードカナリーグラスに効果がある。 6. コスズメノチャヒキには効果が劣る。	

番 号	商 品 名 【試験番号】 (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期 10a当たり使用量	主な対象雑草						毒性	本剤の使用回数	使用上の注意事項	新規・改訂
				ギンギン類 実生	イネ科 実生	イネ科 実生	広葉 実生	フキ	ワラビ				

ウ. 草地(経年)

1	アゼラック液剤 【アゼラム液剤】 (S57-p190)	アゼラム 37.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 ・春処理 ・ギンギン類の栄養成長期(採草14日前まで) ・5月上旬～下旬 200～300ml	○						1	1. 当該春間に黄化・生育抑制がみられるので注意する。 2. 高温時又は降雨前の散布は避ける。 3. 重複散布は避ける。 4. 採草・放牧直後の散布は避ける。散布後14日間は放牧・採草は行わない。 5. 局所処理は50～80倍液を1株あたり約25ml。 6. 局所散布した周辺の牧草は飼料にしない。 1. 当年はギンギン類の黄化のみで翌年春に枯死する。 2. 北海道での秋期散布は、最終採草後に行う。 3. 散布後14日間は放牧を行わない。	訂
2	ハーモニー75DF水和剤 ハーモニーDF 【DPX-16顆粒水和剤】 (H9-p120)	チフェンシロフロキサチル 75.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 ・秋処理 ・ギンギン類の栄養成長期(但し、最終採草後) ・10月上旬～中旬 300～400ml	○						1	1. イネ科草種(経年草地及びアルファルファとの混播草地)。 2. クローバに対する薬害が著しい。 3. 夏処理についてはイネ科牧草についても生育抑制がみられることがあるが、夏期高温時の薬害の程度はアゼラム剤に比べて少ない。 4. 本剤散布後21日間は採草及び放牧を行わない。 5. 散布液の飛散や流出によって有用植物に薬害が生ずることのないよう十分注意して散布すること。 6. 本剤散布に用いた器具類は、タンクやホース内に薬液が残らないよう使用後できるだけ早く専用の洗浄剤でよく洗浄し、他の用途に使用する場合は、薬害の原因にならないように注意する。	
3	ハンバルD液剤 【MDBA液剤】 (H12-p373) (H13-p269)	MDBA 50.0%	雑草茎葉散布 ・イネ科経年草地のギンギン類に対する秋処理 ・ギンギン類の栄養成長期 ・秋期最終刈り取り後30日以内 75～100ml、水100L	○						1	1. マメ科牧草には薬害を生じるので、イネ科草地で使用する。 2. 散布薬剤の飛散、あるいは流出によって、作物に薬害が生じることのないように十分注意する。 3. 秋期散布した牧草は使用しないこと。	

エ. 草地更新用地

1	エイトアック液剤 【AK-01液剤】 (H17-p328) (H17-p333) (H20)	グリホサートイソプロル アミン塩 41.0%	雑草茎葉散布 ・雑草の生育盛期 ・耕起の10日以前 ・雑草全般 250～500ml、水50L ・ギンギン類 500～700ml、水50L	○	○	○	○	○	○	2	(雑草茎葉散布) 1. 刈り取り後、前植生の再生を待つて処理する。 2. 専用ノズルを使用する。 (は種前処理) 1. 主要雑草が出揃うのを待つて処理する。 2. 硬土・堅地は丁寧に、処理後は鎮圧以外の表土攪乱を避ける。 3. 専用ノズルを使用する。 4. 薬量の増加に伴い、は種牧草の発芽数が減少する傾向が認められるので10a当たり製品使用量を守る。 5. 泥炭土での使用は避ける。	
2	グリホエクス液剤 【AK-01液剤】 (H17-p328) (H17-p333) (H20)			○								
3	サンワロン液剤 【AK-01液剤】 (H17-p328) (H17-p333) (H20)		【は種前処理】 ・は種10日前からは種当日まで ・雑草全般 250～500ml、水50L	○	○	○	○	○	○			

番 号	商品名 【試験番号】 (指導致参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期 10a当たり使用量	主な対象雑草					毒性	本 剤 の 使 用 回 数	使 用 上 の 注 意 事 項	新 規 ・ 改 訂
				ギンギ シ類	イネ科		フ キ	ワ ラビ				
					実 生	実 生						
4	カトクシツ 【W00-01液剤】 (H11-p347) (H14-p278)	グリホサートイソプロピル アミン塩 41.0%	雑草茎葉散布 ・雑草の生育盛期 ・更新の10日以前 ・雑草全般 250～500ml、水50L ・ギンギシ類・シムキ 500～700ml、水50L ・フキの栄養生長期 ・春処理5月上旬～下旬 ・耕起の10日以前 600～800ml、水50L	○	○	○	○	○	2	1.刈り取り後、前植生の再生を待つて処理する。 2. 専用ノズルを使用する。 1.フキの葉が大きくならないうちに処理する。 2. 専用ノズルを使用する。		
	(H17-p329) (H17-p331)		は種前雑草茎葉散布 ・は種床の雑草発生前期 ・は種10日前からは種当日まで 250～500ml、水25～50L	○	○	○	○	○		1. 主要雑草が出揃つのを待つて処理する。 2. 碎土・整地は丁寧に、処理後は鎮圧以外の表土攪乱を避ける。 3. 専用ノズルを使用する。 4. 葉量の増加に伴い、は種牧草の発芽数が減少する傾向が認められるので10a当たり製品使用量を 守る。 5. 泥炭土での使用は避ける。 1. 刈り取り後、前植生の再生を待つて処理する。		
5	サンダーホーランド007 【NH-0077077液剤】 (H19-p373) (H19-p375)	ピラフルエンチル 0.16% グリホサートイソプロピル アミン塩 30%	雑草茎葉散布 ・雑草の生育盛期 ・耕起の10日以前 ・雑草全般 400～600ml、水100L ・ギンギシ類 400～600ml、水100L	○	○	○	○	○	1	1. 刈り取り後、前植生の再生を待つて処理する。		
6	カチダウシQ 【ZK-122液剤】 (H18-p309) (H18-p314) (H18-p311) (H19-p372) (H18-p312) (H26-p274) (H18-p308)	グリホサートイソプロピル塩 44.7%	雑草茎葉散布 ・雑草の生育盛期 ・耕起の10日以前 ・雑草全般 300ml 水25～100L ・ギンギシ類 300～500ml 水50～100L フキ(雑草茎葉散布) ・フキの栄養生長期 ・春処理(5月中・下旬) ・耕起の10日以前 600～750ml、水50～100L リートカリーグラス(雑草茎葉散布) ・8月中旬の2番草収穫から約20～30日後(リ- トカリーグラス草丈20～50cm) 500～750ml、水50L	○	○	○	○	○	2	1. 刈り取り後、前植生の再生を待つて処理する。 2. 専用ノズルを使用する。 1. フキの葉が大きくならないうちに処理する。 2. 専用ノズルを使用する。 1. 専用ノズルを使用する。 2. 2番草収穫(最終刈取)後、リートカリーグラスの再生草丈を確認して処理する。 3. リートカリーグラスは発生発生が懸念されるため、「は種前雑草茎葉散布(は種床処理)」と組み合わせ ることが望ましい(泥炭土を除く)。 1. 主要雑草が出揃つのを待つて処理する。 2. 碎土・整地は丁寧に、処理後は鎮圧以外の表土攪乱を避ける。 3. 専用ノズルを使用する。 4. 葉量の増加に伴い、は種牧草の発芽数が減少する傾向が認められるので10a当たり製品使用量を 守る。 5. 泥炭土での使用は避ける。		

番 号	商 品 名 【試験番号】 (指導参考年次)	有効成分名 及び含有量(%)	使用方法及び使用時期 10a当たり使用量	主な対象雑草						使用上の注意事項	新規 ・ 改訂
				ギンギ ン類	イネ科	広葉 実生	経年 実生	フ キ	ワ ラビ		
7	フロロコ 【MON-93A液剤】 (H13-p263) (H13-p265)	グリホサートアンモニウム塩 33.0%	雑草茎葉散布 ・雑草の生育盛期 ・更新・造成10日以前 250～500ml、水50L は種前雑草茎葉散布 ・は種床の雑草発生前期 ・は種10日前からは種当日まで 250～500ml、水50L	○	○	○	○	○	○	1. 刈り取り後、前植生の再生を待つて処理する。 2. 専用ノズルを使用する。 1. 主要雑草が出揃うのを待つて処理する。 2. 砕土・整地は丁寧に、処理後は頓任以外の表土撈乱を避ける。 3. 専用ノズルを使用する。 4. 葉量の増加に伴い、は種牧草の発芽数が減少する傾向が認められるので10a当たり製品使用量を 守る。 5. 泥炭土での使用は避ける。	
8	ラカントアツツツガスロード 【NG-622液剤】 (H18) (H20-p311) (H21-p292) (H18) (H20-p313) (H21-p290) (H26-p277) (R3-p87)	グリホサートカリウム塩 48.0%	雑草茎葉散布 ・雑草の生育期 ・耕起の10日以前 200～300ml、水25～50L 雑草茎葉散布 ・ギンギン類の生育期 ・耕起の10日以前 300～500ml、水25～50L リートカリーグラス(雑草茎葉散布) ・8月中旬の2番草収穫から約20～30日後(リ ートカリーグラス草丈20～50cm) 500～750ml、水50L	○	○	○	○	○	○	1. 専用ノズルを使用する。 2. 刈取後は前植生の再生を待つて処理する。 1. 専用ノズルを使用する。 2. 刈取後は前植生の再生を待つて処理する。 1. 専用ノズルを使用する。 2. 2番草収穫(最終刈取)後、リートカリーグラスの再生草丈を確認して処理する。 3. リートカリーグラスは実生発生が懸念されるため、「は種前雑草茎葉散布(は種床処理)」と組み合わせ ることが望ましい	
	(H21-p294) (R3-p87)		は種前雑草茎葉散布 ・は種床の雑草発生前期 ・は種10日前からは種当日まで 200～300ml、水50L	○	○	○	○	○	○	1. 専用ノズルを使用する。 2. 泥炭土での使用は避ける(ただし、表土の土砂含量が55%を超える場合にはその限りではない)。	

才・草地造成・更新用地

1	アーンラック液剤 【アーンラック液剤】 (S50-p162)	アーンラック 37.0%	雑草茎葉散布又は全面散布 ・ワレ展葉期 1,000ml							1. ワラビの芽養成長期の散布は避ける。 2. 降雨前の散布を避け、処理後は放牧・採草を行わない。	
---	--------------------------------------	--------------	--------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--

(3)グリホサート系除草剤の使用回数について

飼料作物に掲載したグリホサートを含む除草剤の使用回数は、農薬登録では以下のとおりなので留意する。
 なお、使用回数のカウント期間は「1回(準備作業を含む)から収穫に至るまでの間(複数回収穫される作物では、直前の収穫から次の収穫までの間)」である。
 草地では、1回の準備作業は耕起をもって始まると解される。よって、例えば草地更新用地では、耕起前の使用回数は耕起後の使用回数に引き継がれない。

ア とうもろこし(飼料用)

商 品 名	本剤の使用回数	グリホサートを含む農薬の 総使用回数	新規 ・改訂
タッチダウンIQ、ラウンドアップマックスロード	2回以内	2回以内	

イ 草 地

商 品 名	本剤の使用回数	グリホサートを含む農薬の 総使用回数	新規 ・改訂
サンダーボルト007	1回	3回以内 (本剤はピラフルフェンエチルを含み、ピラフルフェンエチルを含む農薬の総使用回数は2回以内)	
ブロンコ	2回以内	3回以内	
エイトアップ液剤、グリホエキス液剤、サン フーロン液剤、クサトリキング、タッチダウンIQ	2回以内	3回以内	
ラウンドアップマックスロード	3回以内	3回以内	